

史跡結城廃寺跡附結城八幡瓦窯跡 整備基本計画

令和5年（2023）3月

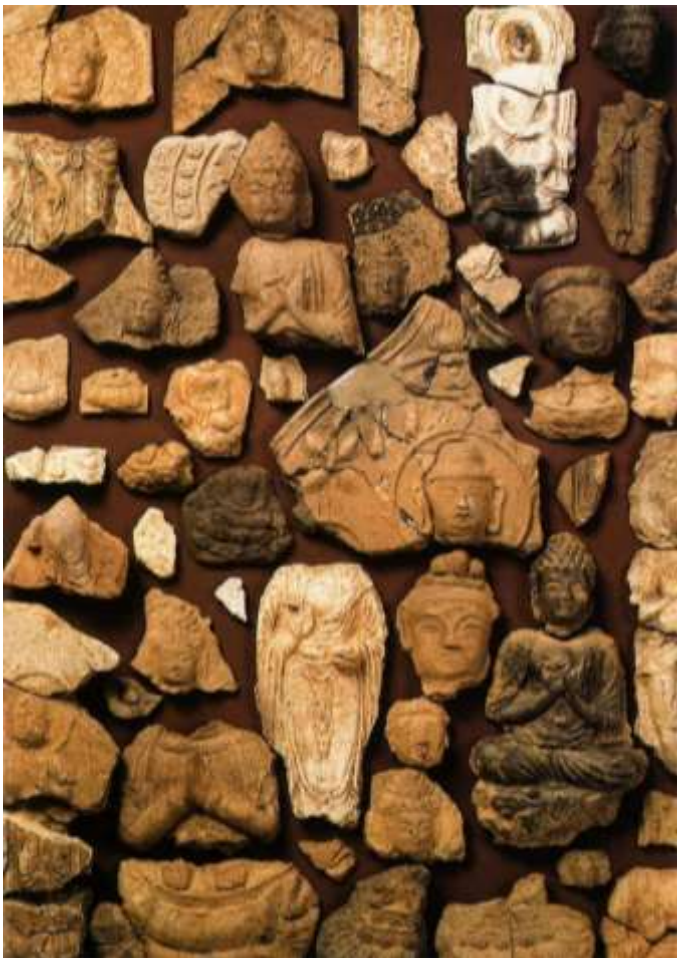
結城市教育委員会



史跡航空写真（令和元年（2019）撮影）



塔心礎舍利孔石蓋 (市指定文化財)



埴仏 (市指定文化財)



塑像頭髮 (市指定文化財)



塑像右脚部 (市指定文化財)

例 言

1. 本書は、茨城県結城市に所在する国指定史跡結城廃寺跡附結城八幡瓦窯跡の整備基本計画書である。
2. 本計画は、令和3・4年度（2021・2022）の2か年で、結城市が国庫補助事業を受けて実施した。
3. 本計画は、文化庁文化財第二課と茨城県教育庁総務企画部文化課の指導・助言の下、策定した。
4. 本事業の実施にあたり、結城市教育委員会生涯学習課を事務局とし、結城廃寺跡保存整備委員会を設置した。
5. 本計画策定にあたっては、結城廃寺跡保存整備委員会による協議・検討した内容を基に、事務局が支援業務を株式会社フジヤマに委託した。

本文目次

第1章	計画策定の経緯と目的	1
第1節	計画策定の経緯.....	1
第2節	計画の目的.....	4
第3節	計画策定の範囲.....	4
第4節	委員会の設置.....	5
第5節	関連計画との関係.....	6
第6節	計画の実施.....	12
第2章	計画地の現状	13
第1節	自然的環境.....	13
第2節	歴史的環境.....	15
第3節	社会的環境.....	27
第3章	史跡の概要及び現状と課題	45
第1節	史跡指定の現状.....	45
第2節	史跡の概要.....	54
第3節	公開活用のための諸条件の把握.....	71
第4節	広域関連整備計画.....	76
第4章	基本方針	77
第1節	基本理念.....	77
第2節	基本方針.....	77
第5章	整備基本計画	78
第1節	全体計画及び地区区分計画.....	78
第2節	遺構保存に関する計画.....	83
第3節	遺構の表現に関する計画.....	87
第4節	動線計画.....	97
第5節	案内・解説施設に関する計画.....	100
第6節	修景及び植栽に関する計画.....	106
第7節	管理施設及び便益施設に関する計画.....	108
第8節	公開・活用及びそのための施設に関する計画.....	111
第9節	周辺地域の環境保全に関する計画.....	116
第10節	地域全体における関連文化財等との有機的な整備活用に関する計画.....	117
第11節	公開・活用に関する計画.....	119
第12節	管理・運営に関する計画.....	121
第13節	事業計画.....	122
第6章	完成予想図	123



第1章

計画策定の経緯と目的

第1節 計画策定の経緯

国指定史跡^{ゆうきはいじあとつけたりゆうきはちまんかわらがまあと}結城廃寺跡 附 結城八幡瓦窯跡が位置する所在地一帯は、江戸時代には結城寺村と呼称されており、「結城寺北」「結城寺前」「寺山」といった、寺院に直接由来を持つと考えられる小字名や、畑の表面にみられる瓦片などから古代寺院が存在する場所と考えられていた。

本史跡の発掘調査は、昭和28年（1953）に結城八幡瓦窯跡が高井悌三郎氏（当時甲陽学院中学校・高等学校教諭）を中心に行われた。昭和63年度（1988）から平成7年度（1995）に、結城市教育委員会が結城廃寺跡の発掘調査を実施し、平成12年度（2000）から13年度（2001）にかけて、結城八幡瓦窯跡の確認調査を実施した。

以上の発掘調査の成果によって、寺院跡の全体像と窯跡における生産体制の一端が判明したことや、結城廃寺跡が色濃い畿内的特徴を持つことを示すとともに、東国への仏教文化の伝播と発展を考える上で極めて重要な遺跡として評価され、平成14年（2002）9月20日付けで結城廃寺跡と結城八幡瓦窯跡は国の史跡に指定された。

平成15年（2003）4月1日に「結城廃寺跡保存整備委員会」を設置し、保存管理方針と整備基本方針の検討を進めた。平成20年度（2008）から史跡指定地内の民有地の公有化を開始した。平成29年（2017）10月13日付けで追加指定を受け、平成30年度（2018）をもって対象地の公有化が完了し、令和元年度（2019）から2年度（2020）の2か年で史跡結城廃寺跡附結城八幡瓦窯跡保存活用計画（以下、「保存活用計画」という。）を作成した。

史跡の将来にわたる確実な保存と有効的な活用に向けた整備を推進していくためには、整備の基本となる計画が必要であることから、令和3年度（2021）から4年度（2022）の2か年をかけて、史跡結城廃寺跡附結城八幡瓦窯跡整備基本計画の策定を行った。



図1-1 結城市及び史跡結城廃寺跡、結城八幡瓦窯跡位置図1



図1-2 結城市及び史跡結城廃寺跡、結城八幡瓦窯跡位置図 2



図1-3 結城市及び史跡結城廃寺跡、結城八幡瓦窯跡位置図

第2節 計画の目的

本史跡を含む周辺は、自然環境の景観や社会的環境などに様々な変化が見られ、本史跡の顕著な普遍的価値を維持していくためには、その変化に応じた保存・活用・整備についての計画策定が不可欠である。

周辺は、宅地や農地、工場などが混在する地域であり、史跡指定地内に上山川就業改善センターが、隣接地には上山川保育所といった公共施設も存在する。本史跡が位置する上山川地区は、市街化調整区域に指定されているため、指定地周囲で大規模開発などが行われる可能性は低いですが、個人住宅や民間工場といった小規模開発の可能性は依然として高い状況にある。

保存活用計画に掲げた基本理念である、「結城市の貴重な文化財の保護と周辺環境の保全、古代結城郡に存在した東国有数の寺院であった結城廃寺跡並びに結城廃寺創建期の瓦を生産した結城八幡瓦窯跡の特性を活かし、整備・活用しながら後世へ継承していく」ことに基づき、本計画では、史跡の主要な価値をさらに高め、適切に保存し、より有効な活用を図るための整備を実現させることを目的とする。この目的達成のために、史跡の現状の課題を明らかにし、課題解決に向けた方針を示すとともに、その実現に向けた整備の方針や方向性、その具体的手法について明示するものである。

第3節 計画策定の範囲

本計画の中心的な範囲は、史跡指定地（指定面積 56,360.86 m²、うち結城廃寺跡 55,162.86 m²、結城八幡瓦窯跡 1,198.00 m²）である。

発掘調査の結果、史跡指定地周辺には寺院造営及び運営に係る竪穴建物跡や掘立柱建物跡が確認されており、指定範囲の周辺にも関連遺跡が広がることが判明している。また、本史跡の周囲には古墳群や中世の館跡が近接しており、本史跡との歴史的関係を解明するために必要不可欠な要素である。

本計画は、史跡指定地の整備はもとより、史跡周辺の文化財や歴史的資源とのネットワーク構築も目指すものとする。

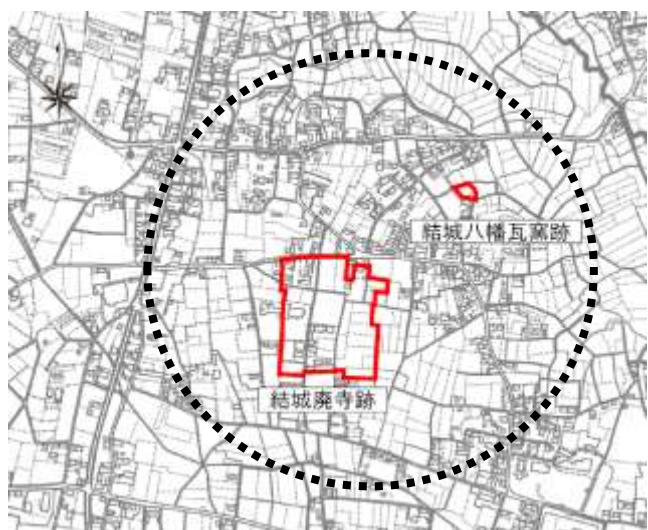


図1-4 計画策定範囲図

第4節 委員会の設置

1 委員会の設置

本計画を策定するにあたっては、本史跡を将来に向けて確実に保存し継承するため、保存活用計画の策定検討時に引き続き、外部有識者5名の委員から構成される「結城廃寺跡保存整備委員会」（以下、「整備委員会」という。）において協議を行った。

【整備委員会の構成員】

〔委員〕

	役職	氏名	所属	分野
1	会長	阿久津 久	常総古文化研究所顧問	考古学
2	副会長	大脇 潔	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所名誉研究員	考古学
3		木下 正史	東京学芸大学名誉教授	考古学・古代史
4		黒田 乃生	筑波大学芸術系教授	史跡整備・造園
5		鶴見 貞雄	茨城県県西教育事務所埋蔵文化財指導員 結城市文化財保護審議会会長	考古学、地元代表

〔事務局〕

結城市教育委員会生涯学習課

〔オブザーバー〕

文化庁文化資源活用課 文化財調査官 中井将胤

茨城県教育庁総務企画部文化課 舟橋 理（令和3・4年度（2021・2022））

2 整備委員会開催の経緯

整備委員会は、次のとおり開催し、各内容について協議を行った。

	日時	内容
第1回	令和3年（2021） 10月22日 ※リモート会議を併 用して開催	(1)整備基本計画（案）について ①目次案について ②現状・課題・方向性について ③整備イメージ図（案）について (2)今後の予定について

	日 時	内 容
第2回	令和3年(2021) 12月7日	(1)整備基本計画(案)について ①現状と課題について ②基本方針(案)について ③ゾーニング(案)について ④動線計画(案)について ⑤短期的に実施すべき整備項目の抽出について
第3回	令和4年(2022) 3月9日	(1)整備基本計画(案)について ①目次について ②第1章 計画策定の経緯と目的について ③第2章 計画地の現状について ④第3章 史跡の概要及び現状と課題について ⑤第4章 基本方針について ⑥第5章 整備基本計画について (2)結城廃寺跡の測量・GPR調査計画・調査結果
第4回	令和4年(2022) 9月27日	(1)整備基本計画(案)について
第5回	令和4年(2022) 12月6日	(1)整備基本計画(案)について (2)発掘調査現場指導
第6回	令和5年(2023) 2月6日	(1)整備基本計画(案)について

第5節 関連計画との関係

1 第6次結城市総合計画 [令和3年(2021)3月策定]

本市の最上位計画である第6次結城市総合計画では、その将来都市像を「みんなの想いを 未来へつなぐ 活力あふれ文化が薫るまち 結城」として、このうち基本構想を令和3年度(2021)から令和12年度(2030)の10年間とし、基本計画では令和3年度(2021)から令和7年度(2025)の5年間を前期計画、令和8年度(2026)から令和12年度(2030)の5年間を後期計画としている。

本計画に関わるものとしては、基本目標4「未来を担う子どもと生き生きした市民を育む地域を目指そう」に対する基本施策4-2「生涯学習環境の充実と市民が誇れる芸術文化の創造」の下、個別施策5「郷土の文化財の保存と活用」として、国指定史跡結城廃寺跡附結城八幡瓦窯跡については、安定的に保存し、歴史教育や生涯学習の場として活用していくため、史跡公園として整備・活用していくほか、史跡等の環境整備、埋蔵文化財包蔵地の試掘調査等を行うことにより、文化財の保護及び後世への伝

承を図るとともに、郷土の文化財や歴史的資料の収集・保存に努め、結城蔵美館などでそれらを展示・公開することにより、本市の歴史の発信や文化財の活用を図るため、その主要事業として、「結城廃寺跡整備事業」と「文化財保護事業」が位置付けられている。

なお、本市では、「結城市教育大綱（平成28年度（2016））」及び「結城市教育振興基本計画（平成30年度（2018））」に基づき教育施策を推進してきたが、令和3年（2021）3月に策定した第6次結城市総合計画において、教育、文化及びスポーツに関する基本目標並びに教育及び文化の振興に関する総合的な施策の基本方針を定めていることから第6次結城市総合計画の教育、文化及びスポーツに関する部門をもって「結城市教育大綱」及び「結城市教育振興基本計画」として位置付けた。

2 結城市都市計画マスタープラン [平成29年（2017）6月改定]

結城市都市計画マスタープラン（目標年次：令和7年（2025））の全体構想では、将来都市像として「誇れる歴史を大切に 安全・安心で魅力的な 生活の舞台づくり」を目指すものとしている。テーマ別の都市づくりの方針のうち、「4. 景観まちづくりの方針」のひとつとして「3）歴史的建造物等の保全・再生及び交流の場としての環境整備とネットワーク化」を掲げている。ここでは「結城北部市街地に点在する蔵づくり・神社仏閣や城跡歴史公園、南部農業地域の山川不動尊や結城廃寺など、本市を代表する伝統的または歴史的な建造物や史跡等の環境資源については、文化・学術・空間的に都市環境の質を高める貴重な環境資源として、今後も積極的に保全を推進するとともに、後世にその価値を的確に継承するよう努める」としている。また、「伝統的または歴史的建造物や史跡等の環境資源については、市民や来街者が価値のある歴史・文化的環境とふれあえる交流の場としての環境整備を図るとともに、その周辺部についても、新たな歴史・文化的環境の創出に配慮しながら、市民や来街者が楽しめる魅力ある街並みづくり等に努める」、「都市レベルや地域レベルでそれぞれ交流の場を楽しむよう、散策路等の歩行者空間やPR情報等の受発信を担う交流基盤のネットワーク化を図る」ものとしている。

地域別構想では、上山川・山川地区の将来像を「日々の暮らしと密接な関わりを持ちながら、地域の活力を高める 歴史・文化が息づく里・“上山川・山川地区”」と掲げている。「（4）地区の特色を活かしたまちづくりの方針」として、「結城廃寺、山川不動尊、備中塚古墳、水野忠邦の墓、東持寺、綾戸城跡等の歴史的資源や、山川不動尊の縁日等の文化的資源を保全・活用したまちづくりを推進し、地域の活性化を図る」としている。重点プロジェクトとして山川不動尊（地域活性化拠点）と結城廃寺（地域活性化拠点）の整備を位置付けている。具体的には、「歴史的施設の復元」や「歴史の学習やコミュニティ、まちづくりの拠点の形成」に取り組むものとしている。あわせて山川不動尊周辺地区及び結城廃寺跡周辺地区（重点整備ゾーン）の整備と南部農業地域における農村振興などの推進に取り組むものとしている。

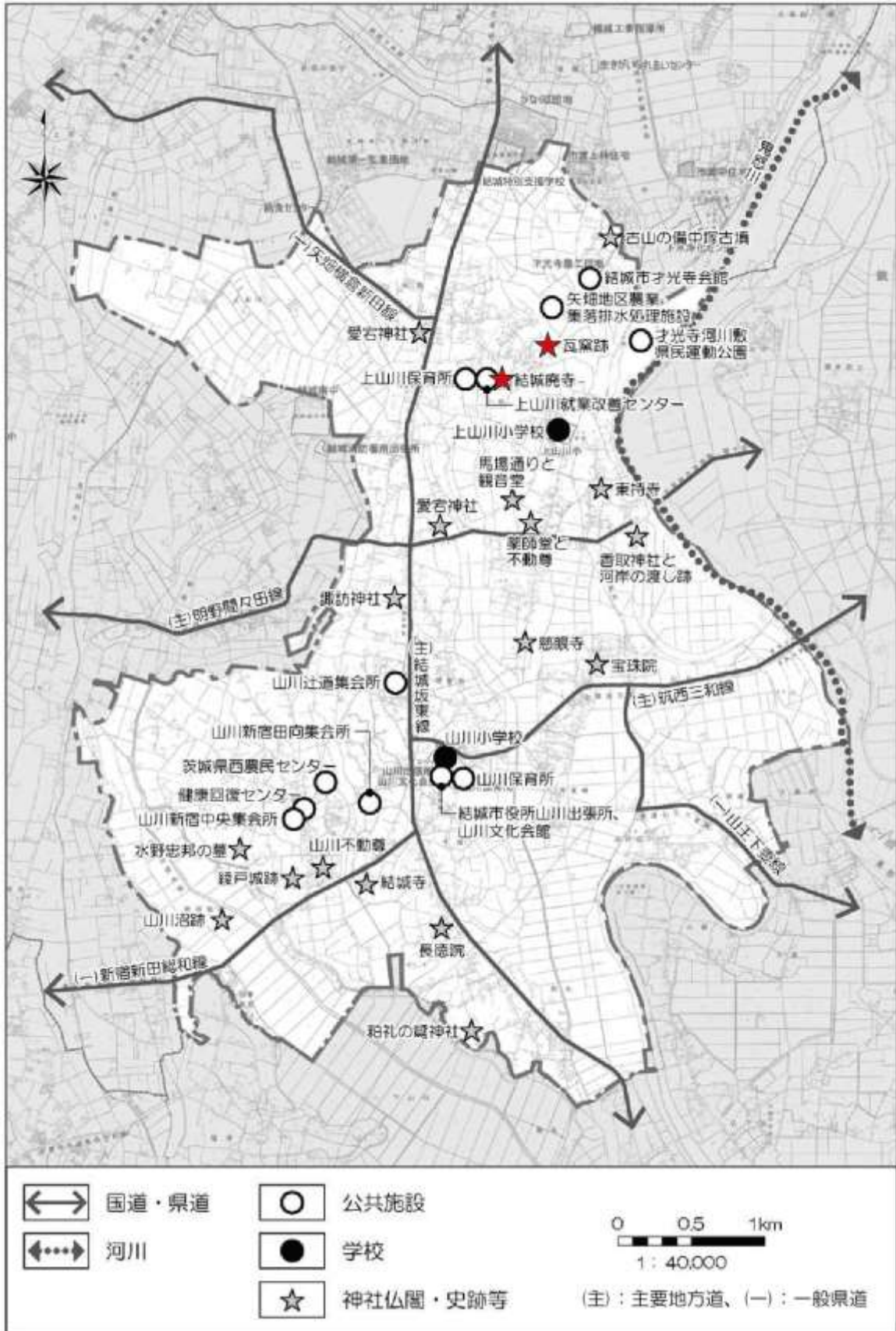


図1-5 上山川・山川地区のまちづくり現況図
 (出典：結城市都市計画マスタープラン、一部加筆修正)



図1-6 上山川・山川地区のまちづくり基本方針図
 (出典：結城市都市計画マスタープラン)

3 第3次結城市生涯学習推進基本計画 [令和4年(2022)3月策定]

第3次結城市生涯学習基本計画(目標年次:令和13年度(2031))は、第6次結城市総合計画を上位計画とし、結城市教育大綱が示す方針を具現化する計画である。

基本理念「生涯学習をつむぎ織りなす“結”のまち」を掲げ、国の第3期教育振興基本計画や県の第5次茨城県生涯学習推進計画を踏まえて策定された。

計画の基本目標「3 生涯学習を活かす地域づくり」の具体的な施策の中で、伝統文化の保存・継承として、結城廃寺跡整備事業が位置付けられている。

4 結城市商業観光振興計画 [平成31年(2019)3月策定]

結城市商業観光振興計画(目標年次:令和6年度(2024))は、市民や事業者、商業・観光・まちづくり各関係者、国、県、市が連携・協力し、商業振興や観光振興へ取り組むことにより、まち全体でのシティプロモーションへ取り組み、地域のPRや知名度の向上を通して、地域への市民の愛着、地域経済の活性化、市の発展を目指すものである。基本理念「『観光で稼げる』新・観光都市ゆうき 観光倍増計画」を掲げ、特に観光客の滞在時間(単価)の倍増を目指す施策の事例として、南部エリアへ観光周遊を広げるために、既存の資源及び新規資源の創出等により、南部エリアの観光を充実するとしている。

5 結城市景観計画 [平成29年(2017)3月策定]

結城市景観計画は、景観法に基づき、良好な景観形成のための必要な事項を定める法定計画で、建築物や工作物等の建築等において、届出・勧告を基本とする緩やかな規制誘導を行うものである。景観形成方針のなかで、特に本計画に関わるものとして、「3. 歴史・文化を伝える風格ある景観づくり【歴史・文化景観】」、「6. 人の営みを感じ・継承する景観づくり【集落景観】」、「7. メリハリのある景観づくり【シンボル景観】」、「8. みんなで守り・つくり・育てる景観づくり【市民協働】」が挙げられる。また、結城廃寺跡周辺は、景観区分において拠点景観に位置付けられている。

6 結城市農業振興地域整備計画 [令和4年(2022)3月改定]

結城市農業振興地域整備計画は、「農業振興地域の整備に関する法律」に基づき、長期に亘り農業の総合的な振興を図るべき土地を明らかにし、その地域に必要な農業施策を計画的に実施し、土地の有効活用と農業の健全な発展を図るための計画である。本計画では、農業振興地域は都市計画法に基づく市街化調整区域と一致する。

史跡指定地の範囲は、平成20年度(2008)及び令和2年度(2020)に地区除外の申請を行い、除外された。

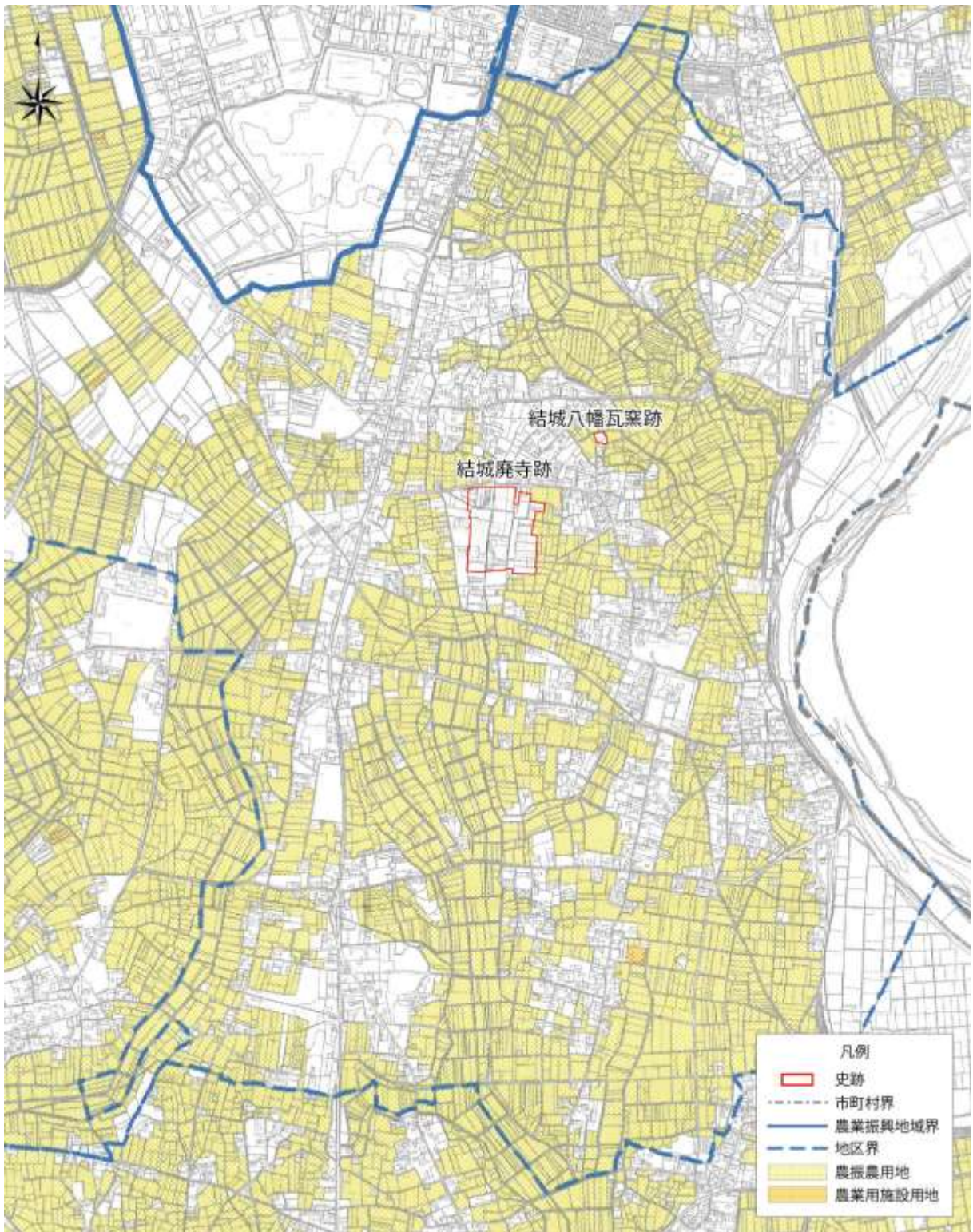


図1-7 結城市農業振興地域整備計画図

7 第2期小山地区定住自立圏共生ビジョン [令和3年(2021)3月改定]

「小山地区定住自立圏」とは、栃木県小山市が中心市となり、隣接する栃木県下野市、野木町、本市の3市1町で構成された圏域である。

小山地区定住自立圏構想は、圏域全体で経済発展や定住環境を整備し、人口流出を防ぐとともに、圏域への新たな人の流れを創出することを目的とする。

本ビジョン（目標年次：令和7年度（2025））は、定住自立圏構想推進要綱及び定住自立圏形成協定（平成28年（2016）4月7日締結）に基づき、小山地区が目指す将来像及びその実現のために必要な具体的取組を明らかにするものである。

本ビジョンにおいては、圏域の将来像として、「豊かな自然・歴史・文化・産業をともにつなぎ支え合う 安全・安心 定住自立圏」を掲げ、「豊かな地域資源（自然・歴史・文化）を生かした魅力溢れるまち」を目標像のひとつとしている。また政策分野別具体的な取組として、「1）生活機能の強化 c教育 c歴史・文化的資源の活用」において、「史跡・文化財施設の広域連携活用」を掲げ、担当課間で検討会・情報交換会を開催し、パンフレット刊行、スタンプラリー等現況下で可能な取組を検討する。また、関係市町の施設の情報等を共有し相互に周知する取組を継続するとしている。

第6節 計画の実施

本計画は、令和5年（2023）3月に策定、同年4月1日から実施するものとし、その目標年次は、保存活用計画の実施期間に合わせ、令和17年度（2035）とする。

なお、今後の調査・研究の進展や環境の変化などが発生し、本史跡に係る状況が変化した場合や、第6次結城市総合計画をはじめとした上位計画の内容に変更が生じた場合は、随時計画の見直しを図るものとする。



第2章 計画地の現状

第1節 自然的環境

1 地形・地質

本市の地形はおおむね平坦で、関東ローム層に覆われており、利根川の支流である鬼怒川・田川と西仁連川（江川）の河川には含まれた、常総台地の一つである「結城台地」と呼ばれる海拔20～45mの標高をもつ比較的高いゆるやかな低丘陵地帯である。

関東ローム層の主な土壌は、(a) 黒色火山灰土、(b) 黒褐色火山灰土、(c) 褐色火山灰土、(d) 黄褐色火山灰土など4種類に分かれる。市域は(b)及び(c)が圧倒的に多く、(b)は上山川地区以北に分布し、(c)は山川沼周辺地域に集中している。また、鬼怒川・田川流域には河川氾濫による沖積土の堆積が見られる。田川右岸の小森・宮崎周辺の広大な水田地帯は灰褐色土壌、市南東部の芳賀崎・浜野辺周辺の水田地帯は灰色土壌である。その他の畑地帯では砂層混じりの暗褐色沖積土が見られる。

本史跡周辺は、鬼怒川流域で最も安定した肥沃な沖積層の水田地帯と、洪積層の畑地に分かれる。多くの谷頭が樹枝状に台地の中に入り込んでおり、その谷頭を望む台地の縁辺を中心に多くの遺跡が残る。谷頭とは、洪積台地が自然の水流によって掘り割られ、形成された沖積層の開析地のことを指しており、その土壌は水の条件や植生などの差により黒泥土壌や黒色土壌となる。

地質は、台地上では関東ローム層より下層は砂礫層・砂層・粘土層などが交互に堆積するが、鬼怒川沿いにおいては砂礫層と砂層のみの埋積となる。



図2-1 地質図（出典：国土地理院）

2 気 候

本市の気候は比較的温暖であり、年間平均気温は14.9℃、年間の降水量は1,270mm、夏季は平均180mm程度、冬季は平均50mm程度である。

東京に比べやや内陸性を帯びてはいるものの、典型的な太平洋岸式気候である。

夏季には湿度が高く降雨量も多いが、冬季には三国山脈を越えてくる「日光おろし」といわれる乾燥した強い北北西の季節風が吹き、おおむね11月下旬には初霜をみるが降雪は極めて少なく、四季を通じて晴天の日が続くなど気象条件には恵まれている。

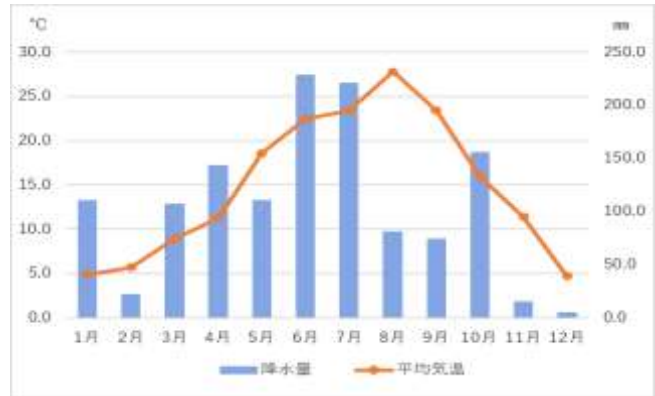


図2-2
結城市の月別平均気温及び降水量
(資料：令和3年度統計ゆうき)

3 水 系

本市を流れる河川は市域東部に鬼怒川・田川が、西部には西仁連川があり、北から南に向かって流れている。これらの河川では、特に鬼怒川・田川流域を中心として舟運が行われていた。中世以降に河岸が形成され、江戸時代には久保田河岸に会津松平藩の蔵が並ぶなど、隆盛を誇った。しかし、これら河川の流域では常に洪水被害に悩まされており、豊かな恵みをもたらす存在であるとともに生活や生産を脅かす存在でもあった。

特に鬼怒川は被害が大きく、古代においては、「続日本紀」神護景雲二年条に「下総国結城郡小塩郷小島村から常陸国新治郡川曲郷受津村まで鬼怒川の改修が行われた」との記述が残り、古くから河川改修が行われていたことが明らかとなっている。



図2-3 水系図

4 植 生

茨城県西地区においては、開発の影響などにより自然植生による森林は社寺などにわずかに残されるのみとなっており、スダジイ、タブノキ、シカラシ、ヤブツバキ、シキミなどを中心とした森林が形成されている。一方、台地斜面や屋敷林などにはスギ、ヒノキ、モウソウチクが植林されており、多く見ることができる（環境庁 1987「第3回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書（茨城県）」）。

本市の植生は、雑木林を中心として構成されている。高木層ではコナラが優占し、アオハダ、ウワズミザクラ、エゴノキ、コブシ、ヤマザクラなどがある。低木層ではアオキ、イヌツゲ、ウメモドキ、ヒサカキ、ヤマウルシなどが見られる。草本層には、アズマネザサ、アケビ、イヌツゲ、タラノキ、マンリョウなどが生育する。

また、準絶滅危惧種であるコイヌガラシやホソバイヌタデ、ミゾコウジュが確認されている。さらに、県内では希少なキチジョウソウ、ズミ、シュンラン、カスミザクラ、オトギリソウなども確認されている（茨城県自然博物館 2011「茨城県自然博物館総合調査報告書 茨城県西部及び筑波山の維管束植物（2006-2008）」）。

第2節 歴史的環境

1 旧石器時代から弥生時代

旧石器時代 市内の旧石器時代遺跡は非常に少ない。才光寺遺跡（図2-4-042）からは、頁岩製のナイフ形石器と槍先形尖頭器がそれぞれ1点、峯崎遺跡（図2-4-036）では頁岩製の剥片が表採されている。また須久保塚古墳（図2-4-010）では、発掘調査で槍先形尖頭器が出土している。

縄文時代 縄文時代は、早期から晩期の遺跡が確認されている。基本的には鬼怒川や田川、西仁連川流域に広がる低地を望む台地の縁辺に多く見られ、それらの低地から台地の中に延びる谷頭の周辺でも、あまり台地の中に入り込まず、河川の流域付近に多く残されている。

これらの遺跡のうち、発掘調査が実施された鹿窪坂の上遺跡（図2-4-038）は、中期から晩期にかけての集落で、土製耳飾りや土偶、亀形土製品といった豊富な遺物が出土した。

弥生時代 弥生時代になると遺跡の数は減少し、いずれも後期の小規模な集落である。遺跡の分布は市西部の西仁連川流域に多くみられ、鬼怒川流域には広く展開しない。これは、鬼怒川は西仁連川に比べ、川幅も広く水量も豊富であったが、その分、氾濫もたびたび起こり、安定して集落を営むのが難しかったためであろう。ただし、鬼怒川流域では、対岸の筑西市に再葬墓群や人面付壺形土器が出土したことで知られる女方遺跡があり、本市の弥生時代を考える上でも重要な遺跡である。

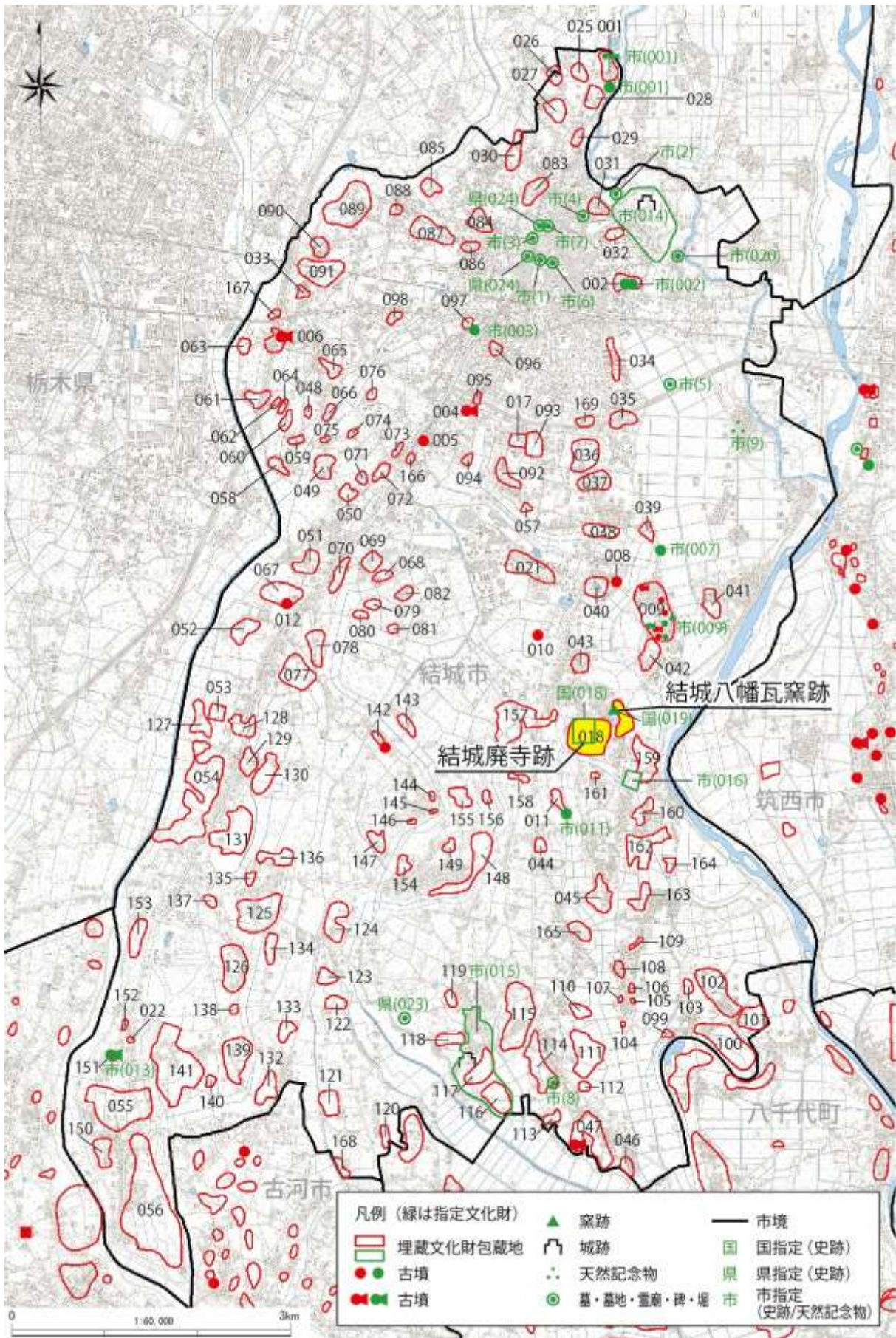


図2-4 史跡の位置と周辺の遺跡の分布

表2-1 結城市の遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	所在地
001	松木合A遺跡	結城字松木合 12381 外
002	曾我殿台遺跡	結城字曾我殿台
003	和尚塚古墳	結城字公達 9879
004	天神山塚古墳	結城字下山 7945
005	繁昌塚古墳	結城字繁昌塚 9148 外
006	小田林遺跡	小田林字南原 351 外
007	保戸塚古墳	鹿窪字香取下 834 外
008	向原富士見浅間塚古墳	鹿窪字向原 1384
009	林古墳群	林字中林 653-2 外
010	須久保塚古墳	上山川字須久保塚 236-5
011	天神遺跡	上山川字天神 2174 外
012	堂塚古墳	田間字屋敷尻 1247-1
013	北南茂呂稲荷塚古墳	北南茂呂字稲荷前 472~476
014	結城城跡	結城字城跡 2278-1 外
015	山川綾戸城跡	山川新宿字古城跡 5 外
016	東持寺境内遺跡	上山川字我里内 3223-3228
017	城の内遺跡	結城字城ノ内 8717~8718
018	結城廃寺跡	矢畑字結城寺前 141 外
019	結城八幡瓦窯跡群	上山川字八幡 3589 外
020	慈眼院結城家御廟	結城字大谷瀬 2709 外
021	沼尻向遺跡	鹿窪字沼尻向 1466 外
022	北茂呂遺跡	北南茂呂字北坪 430 外
023	水野家歴代の墓	山川新宿字山の神 1653-1 外
024	御朱印堀	結城字立町 459 外
025	松木合B遺跡	結城字松木合 12353 外
026	松木合C遺跡	結城字松木合 12285 外
027	柳下C遺跡	結城字柳下 12081 外
028	柳下A遺跡	結城字柳下 12228 外

遺跡番号	遺跡名	所在地
029	柳下B遺跡	結城字柳下 12166 外
030	砂窪A遺跡	結城字砂窪 11990 外
031	永正塚遺跡	結城字永正塚 1880 外
032	鷹部屋遺跡	結城字鷹部屋 1210 外
033	本田B遺跡	小田林字本田 1999 外
034	観音台遺跡	結城字観音台 5947 外
035	下り松遺跡	結城字下り松 6267 外
036	峯崎遺跡	結城字峯崎 6650 外
037	西原遺跡	鹿窪字西原 16 外
038	鹿窪坂の上遺跡	鹿窪字坂の上 459 外
039	坂の上東遺跡	鹿窪字坂の上 498 外
040	向原遺跡	鹿窪字向原 1328 外
041	中遺跡	中字後免前 12 外
042	才光寺遺跡	上山川字備中 4135 外
043	北坪遺跡	矢畑字北坪 288 外
044	西耕地遺跡	上山川字西耕地 312 外
045	前法内遺跡	上山川字前法内 774 外
046	戸崎遺跡	粕礼字戸崎 942 外
047	鷲神社遺跡	粕礼字下宿 987 外
048	塚越遺跡	小田林字塚越 922 外
049	大日山遺跡	結城字西繁昌塚 9511-4 外
050	作野谷遺跡	結城作字作野谷 9381-4 外
051	中曽根遺跡	上成字中曽根 34 外
052	諏訪東遺跡	田間字諏訪東 838 外
053	三蔵神社遺跡	田間字権現東 758-1 外
054	香取前遺跡	田間字神明前 428 外
055	南茂呂遺跡	北南茂呂字本田坪 205 外
056	七五三場遺跡	七五三場字屋敷付 205 外

第2章 計画地の現状

遺跡番号	遺跡名	所在地
057	房山南遺跡	結城字房山 8688 外
058	水深遺跡	小田林字水深 81 外
059	下原南遺跡	小田林字下原 515 外
060	下原中遺跡	小田林字下原 477 外
061	善長寺遺跡	小田林字善長寺 443 外
062	南原遺跡	小田林字南原 203 外
063	六反田遺跡	小田林字六反田 306 外
064	下原北遺跡	小田林字下原 441 外
065	新田東遺跡	小田林字新田東 1170 外
066	黒田前遺跡	小田林字黒田前 790 外
067	本郷遺跡	上成字本郷 1 外
068	小蓋山南遺跡	上山川字小蓋山 5022 外
069	小蓋山北遺跡	上山川字片蓋 4966 外
070	上成東浦遺跡	結城字境木 239 外
071	久保遺跡	結城字久保 500 外
072	西繁昌塚南遺跡	結城字西繁昌塚 364 外
073	西繁昌塚北遺跡	結城字西繁昌塚 9594 外
074	黒田向遺跡	小田林字仁軒地 654 外
075	仁軒地遺跡	小田林字仁軒地 635 外
076	西繁昌塚遺跡	結城字西繁昌塚 9630 外
077	田間東浦遺跡	田間字東浦 1564 外
078	井筋向遺跡	大木字上成境 2378 外
079	石堂北遺跡	上山川字石堂 5312 外
080	石堂西遺跡	上山川字石堂 5281 外
081	石堂東遺跡	上山川字石堂 5373 外
082	谷向遺跡	上山川字谷向 5138 外
083	根本原遺跡	結城字砂窪 11905 外
084	逆井遺跡	結城字逆井 11413 外
085	四ツ京遺跡	結城字四ツ京 11497 外

遺跡番号	遺跡名	所在地
086	五本木遺跡	結城字五本木 10572 外
087	長塚東遺跡	結城字長塚 10489 外
088	長塚西遺跡	結城字長塚 10688 外
089	上ノ宮遺跡	結城字上ノ宮 10751 外
090	上海道遺跡	小田林字上海道 2248 外
091	本田北遺跡	小田林字東浦 1932 外
092	城の内南遺跡	結城字城ノ内 8681 外
093	房山北遺跡	結城字房山 8626 外
094	繁昌塚東遺跡	結城字繁昌塚 9084 外
095	下山遺跡	新福寺 3 丁目 21 番 1 外
096	貉塚遺跡	新福寺 3 丁目 11 番 1 外
097	公達遺跡	結城字公達 9802 外
098	立の山遺跡	小田林字立の山 2520 外
099	浜野辺香取前遺跡	浜野辺字香取前 131 外
100	浜野辺薬師遺跡	浜野辺字観音 232 外
101	水門台遺跡	水海道字水門台 187 外
102	株木遺跡	水海道字株木 11 外
103	二本木遺跡	浜野辺字二本木 556 外
104	前坪南遺跡	芳賀崎字前坪 287-2 外
105	前坪東遺跡	芳賀崎字前坪 336 外
106	大角壺前遺跡	芳賀崎字大角壺前 343 外
107	前坪西遺跡	芳賀崎字前坪 311 外
108	前坪遺跡	芳賀崎字北浦 359 外
109	芋保遺跡	山王字芋保 230 外
110	上下山遺跡	今宿字上下山 681 外
111	大山遺跡	今宿字大山 210 外
112	門前東遺跡	今宿字門前 62 外
113	不動小屋遺跡	今宿字不動小屋 1-1 外
114	門前西遺跡	今宿字宿 35-1 外

遺跡番号	遺跡名	所在地
115	綾戸遺跡	山川新宿字綾戸東通 101 外
116	古城跡南遺跡	山川新宿字古城跡 1-1 外
117	古城跡北遺跡	山川新宿字古城跡 13-20 外
118	南洞貝遺跡	山川新宿字南洞貝 455 外
119	新町西遺跡	山川新宿字新町西 1473 外
120	蓮縄田遺跡	東茂呂字蓮縄田 1522 外
121	南小路遺跡	東茂呂字南小路 1613 外
122	小刀島南遺跡	東茂呂字小刀島 1817 外
123	小刀島北遺跡	東茂呂字中橋 1521 外
124	児ヶ墓遺跡	大木字児ヶ墓 1902 外
125	江川大町遺跡	江川大町字中篠 389 外
126	中篠遺跡	江川大町字細野 28 外
127	下原遺跡	田間字下原 55 外
128	権現東遺跡	田間字権現東 756 外
129	花市山遺跡	田間字花市山 1386 外
130	薬師堂山遺跡	田間字薬師堂山 1747 外
131	武井東浦遺跡	武井字東浦 235 外
132	一ツ木南遺跡	東茂呂字一ツ木 1057 外
133	一ツ木北遺跡	東茂呂字一ツ木 977 外
134	街道西遺跡	北南茂呂字街道西 230 外
135	北原南遺跡	江川新宿字北原 671 外
136	北原北遺跡	江川新宿字北原 348 外
137	中篠北遺跡	江川新宿字細野 76 外
138	中篠南遺跡	江川新宿字中篠 2031 外
139	中村東遺跡	東茂呂字本郷 324 外
140	中村西遺跡	東茂呂字中村 495 外
141	東茂呂北原遺跡	東茂呂字北原 221 外
142	狐塚遺跡	大木字狐塚 2163 外
143	百野遺跡	上山川字百野 6142 外

遺跡番号	遺跡名	所在地
144	立出遺跡	大木字立出 1523 外
145	松山下東遺跡	大木字松山下 1556 外
146	松山下西遺跡	大木字松山下 1631 外
147	星ノ宮遺跡	大木字星ノ宮 1721 外
148	舛ノ谷遺跡	大木字舛ノ谷 354 外
149	古屋敷遺跡	大木字古屋敷 277 外
150	諏訪神社前遺跡	北南茂呂字金挾 1210 外
151	屋敷内遺跡	北南茂呂字屋敷内 477 外
152	並木西遺跡	北南茂呂字並木西 416 外
153	中篠西遺跡	武井字海道割 1256 外
154	戸井橋遺跡	大木字戸井橋 17 外
155	君島遺跡	大木字山王下 1175 外
156	馬明遺跡	大木字馬明 1183 外
157	中台遺跡	上山川字中台 2605 外
158	上山川舛谷遺跡	上山川字舛谷 2453 外
159	西方遺跡	上山川字久保 3231 外
160	谷原遺跡	上山川字谷原 1789 外
161	光国寺遺跡	上山川字光国寺 3113-5
162	台山北遺跡	上山川字台山 1286 外
163	台南山遺跡	上山川字台山 967
164	東原遺跡	上山川字東原 1387 外
165	多畑遺跡	今宿字多畑 220 外
166	繁昌塚西遺跡	結城字繁昌塚 9224 外
167	本田遺跡	小田林字西浦 1642 外
168	大野原遺跡	北南茂呂字大野原 1727 外
169	油内遺跡	下り松 3 丁目 3 番 1 外
市(1)	結城朝光の墓	結城 152
市(2)	玉日姫の墓	結城 2102
市(3)	砂岡雁宕の墓	結城 1359
市(4)	源翁和尚の墓	結城 1977
市(5)	健田神社旧跡	結城 5607
市(6)	増田遷屍文人の碑	結城 312
市(7)	早見晋我の墓	結城 1570
市(8)	山川家歴代霊廟	今宿 45
市(9)	大桑神社の櫓群	小森 1

2 古墳時代

集 落 古墳時代は、本市西部を流れる西仁連川流域と、本市東部を流れる鬼怒川・田川流域に遺跡が多く分布する。

古墳時代前期には、西仁連川流域に集落が展開する。善長寺遺跡（図2-4-061）・小田林遺跡（図2-4-006）があげられ、両遺跡は300mほどしか離れておらず、隣接する2つの集落に前期だけで77軒の住居跡が確認されている。対岸の栃木県小山市では、西仁連川流域に前期から中期にかけての古墳が展開する横倉戸館古墳群、豪族居館と推定される下犬塚遺跡などが位置しており、関連性の高さがうかがえる。

中期から後期においては、西仁連川流域及び鬼怒川・田川流域それぞれに集落が展開し、古墳は鬼怒川・田川流域に多く造られる。本田遺跡（図2-4-167）・善長寺遺跡・峯崎遺跡・下り松遺跡（図2-4-035）などに集落が形成され、特に中期には善長寺遺跡・下り松遺跡で石製模造品工房が確認されている。

古 墳 市内で古墳が造られるのは中期から確認されている。西仁連川流域では、小田林古墳群など4基であるのに対し、田川・鬼怒川流域では松木合遺跡（図2-4-001）や曾我殿台遺跡（図2-4-002）、林古墳群（図2-4-009）などが所在している。松木合遺跡は栃木県小山市と県境を接しており、小山市の寺野東遺跡や西高橋遺跡、絹古墳群、築古墳群と同じ古墳群として捉えることができる。

結城廃寺跡の北約1.5kmに造られた林古墳群は、備中塚古墳（径約67mの円墳、周溝を含めると直径約115m）（図2-5、6）をはじめ、古山八幡塚古墳（全長約50mの前方後円墳）、瓢箪塚古墳（全長約48mの前方後円墳）、林八幡塚古墳（全長約30mの前方後円墳）、小備中塚古墳（径約24mの円墳）、林八幡塚東古墳（径約18mの円墳）など前方後円墳5基、円墳3基を含め少なくとも10基の古墳が存在した、市内最大規模の古墳群である。これらの古墳は、5世紀末から6世紀にかけて造られたと考えられている。

結城廃寺跡の北西約1.2kmに位置する須久保塚古墳（長軸約75m・短軸約53mの長方墳）は、本市唯一の終末期古墳である。主体部は破壊されていたが、掘込地業を伴う、凝灰岩切石の横穴式石室であったと考えられる。

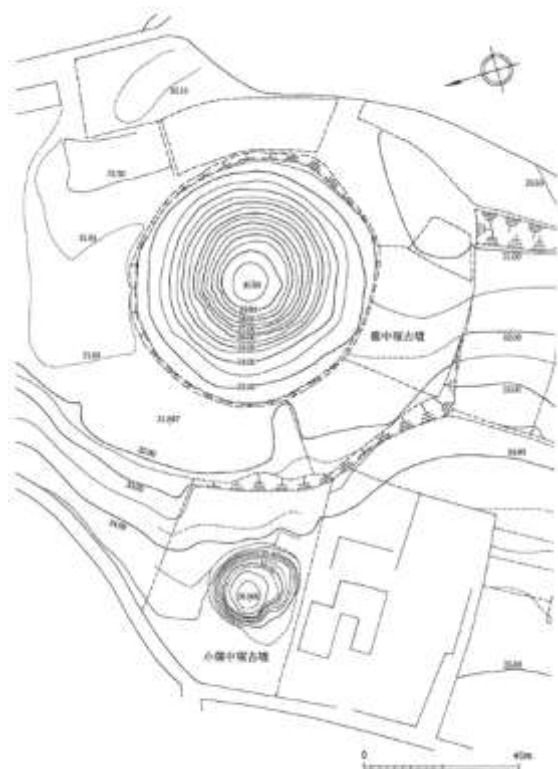


図2-5 備中塚古墳周辺測量図



図2-6 備中塚古墳

3 古代

古代結城郡 古代の結城郡域は、本市の全域及び古河市・八千代町・栃木県小山市の一部を含む。下総国の北端に位置し、北は下野国都賀郡と、東は鬼怒川を境として常陸国新治郡と接し、西は下野国寒川郡・下総国猿島郡、南は下総国豊田郡（岡田郡）と接していた。下総国は11郡からなり、「延喜式」による国の等級では大国に属し、7世紀末に成立したと考えられており、結城郡もほぼ同じ時期に成立したと思われる。また、「和名類聚抄」によれば、結城郡には高橋・結城・茂治（茂呂）・小塙（小塩カ）・余戸の5つの郷があり、郡の等級では下郡に相当する。

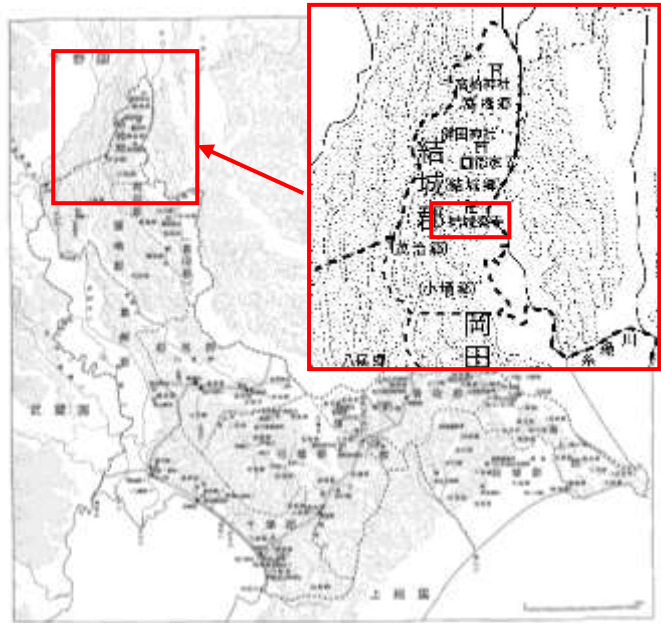


図2-7 下総国の郡・郷・里・駅家
 (出典：市川市史編さん事業調査報告書 下総国戸籍遺跡編)

結城郡の5つの郷の位置ははっきりとは判っていないが、高橋郷は市の北部から栃木県小山市高橋にかけての鬼怒川と田川に挟まれた地域と考えられる。結城郷は市のほぼ中央にあたる鹿窪から矢畑、上山川の一帯と考えられる。結城郡の中心となる郷で、結城廃寺や結城郡衙推定地である峯崎遺跡、市内最大の集落跡である下り松遺跡や油内遺跡（図2-4-169）が位置する。茂治（茂呂）郷は、現在の市南西部に位置する東茂呂や北南茂呂一帯と推定されており、「茂治」は「茂呂」の誤記と考えられている。小塙郷については、「塙」も「塙」も「ハナワ」と読むことから、小塙=小塙として現在の小塙一帯とする説もあるが、「続日本紀」神護景雲二年条に、「下総国結城郡小塩郷小島村から常陸国新治郡川曲郷受津村まで鬼怒川の河修が行われた」との記述があり、その場所は現在の山王、水海道付近から下妻市桐瀬にいたる部分と考えられるため、小塩郷とは小塙郷のことで、市の南東部の山王・浜野辺・水海道一帯と推定されている。余戸郷とは、特定の地域を表すものではなく、50戸で一郷とする郷の編成上、余った戸(家)によって構成された郷である。

大同2年(807)に斎部広成が編纂した「古語拾遺」には、結城という地名の起こりについて、「穀木の生ずる所、故に之を結城郡と謂ふ」と記載される。この穀木の皮を剥ぎ、繊維を蒸して水に浸し、細かく裂いて糸としたものを木綿ゆうといい、主に神事に用いられていた。つまり、結城とは穀木=木綿の木がたくさん生えている所という意味である。

天平勝宝7年(755)、筑紫に派遣された結城郡出身の防人であった矢作真長・忍海部いおまる・雀部広嶋の3名の歌が「万葉集」に収載されている。

10世紀初頭には、「延喜式」巻九の^{じんみょうちょう たけだ}神名帳に健田神社及び高
 椅神社が記載されている。これらは、健田神社は結城郷、高椅^{たかはし}
 神社は高橋郷の所在であったと考えられる。

結城郡では、郡司を務めた有力氏族名は文献などからは現在
 確認されていない。しかし、高橋郷や式内社である高椅神社の
 存在から、結城郡内に高橋氏が居り、斑鳩に拠点の一つをもつ
^{かしわで}膳氏＝高橋氏と密接な関係があったと想定されている。また、
 結城廃寺の創建に際しては、^{せんぶつ}塙仏をはじめとする畿内色の強い遺
 物入手できた背景に、高橋氏が深く関わっていたことが示唆さ
 れている。

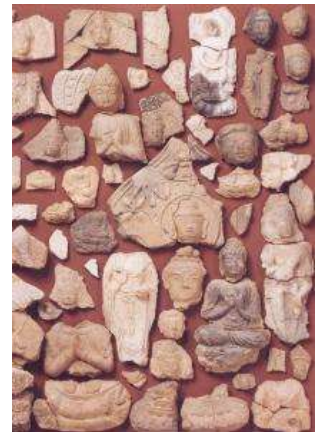


図2-8 塙仏

考古資料においては、北下遺跡（千葉県市川市）から「結
 郡浄 幸」と墨書された8世紀の須恵器坏が出土している。北
 下遺跡は、下総国分僧寺東側の台地下に位置し、旧河道から祭
 祀遺物が出土した。この河道で祭祀を行っており、結城郡が自
 国の祭祀行為に参画していたことが分かる資料である。



図2-9
 塔心礎舍利孔石蓋

結城廃寺跡 結城廃寺跡は、鬼怒川右岸の台地上に8世紀初
 頭に建立され、室町時代の中頃まで約700年間存続していた。
 地名として「結城寺前」「結城寺北」「寺山」といった小字名が
 残り、畑の表面には数多くの瓦片が散布する。本格的な発掘調
 査は昭和63年度（1988）から平成7年度（1995）まで実施され、「^{ほつきじ}法起寺式伽藍配置」
 であることや^{そぞう}塑像、塙仏（図2-8）、^{たるきさきがわら}榎先瓦、^{とうしんそしやりこういしづた}塔心礎舍利孔石蓋（図2-9）とい
 った貴重な遺物が出土し、畿内色が強い寺院であったこと、文字瓦から法号が「法成
 寺」であることが判明した。

結城廃寺跡に関する文献はほとんど残されていないが、10世紀中頃に起こった^{たいらの}平
^{まさかど}将門の乱（936～940年）を記した「^{しょうもんき}将門記」によると、平将門の敵方である^{たいらのよしかね}平良兼
 が八十余騎を率いて下野国府（栃木県栃木市）を出立し、下総国猿島郡石井（茨城県坂
 東市）にある平将門の^{いわいのえいしよ}石井宮所を夜襲に行く際、結城郡法城寺の脇から鵝鴨橋（山川新
 宿釜橋付近）を通過する記述がある。この「法城寺」について、結城寺の誤記である説
 と、法城寺という寺院が存在した説があったが、文字瓦「法成寺」が出土したことによ
 り、結城廃寺跡が法城寺（法成寺）であることが判明した（図2-10）。

結城八幡瓦窯跡 結城廃寺跡の北東約500mのところにある結城八幡瓦窯跡は、鬼怒
 川から延びる谷頭に面する台地の東斜面に造られており、所在する地域の名称が「瓦
 塚」と呼ばれ、古来より瓦の散布する地として知られていた。

昭和28年（1953）、高井悌三郎氏を中心に上山川村教育委員会及び常総古文化研究
 会が、平成12年度（2000）・13年度（2001）には結城市教育委員会が主体となり確認
 調査を実施した。これらの調査で、窯跡はすべて半地下式の窯であったこと、結城廃寺
 創建期の瓦を供給していることが判明している。また、以前は谷の反対斜面などに窯
 壁片や焼土が見られ、このあたり一帯に窯跡群があったことが推定されている。



図2-10 「将門記」における石井営所夜襲関連地図
 (出典：梶原正昭「将門記」1975 平凡社東洋文庫
 『将門記』関係地図2)を一部加筆修正)

関連遺跡 結城郡衙は、現在発見されておらず不明である。本史跡の北方約3kmに位置する峯崎遺跡では、奈良時代から平安時代にかけて、153軒の竪穴建物跡などが検出された(図2-11)。なかでも注目されるのは49棟検出された掘立柱建物跡で、郡衙正倉の可能性が指摘され、「公人」の墨書土器が出土するなどから官衙の様相が見られる一方、「□寺」や「□佛申□」といった文字資料や土製螺髪らほつなどからは寺院の様相が、白磁や奈良三彩、緑釉陶器、灰釉陶器などからは有力者居宅なども想定される(図2-12)。皇朝十二銭の長年大寶ちょうねんたいほうも出土している。



図2-11
峯崎遺跡掘立柱建物群

峯崎遺跡の北方200mに位置する下り松遺跡からは、227軒の竪穴建物跡や鍛冶工房跡、掘立柱建物跡、井戸跡などが検出され、緑釉陶器や灰釉陶器、小型銅造仏(図2-13)、皇朝十二銭の萬年通寶まんねんつうほう・隆平永寶りゅうへいえいほう・寛平大寶かんびょうたいほう、刀装具(鞘尻)などが出土している。下り松遺跡の西約300mに位置する油内遺跡も古代の集落で、主に平安時代を中心とする。



図2-12
峯崎遺跡出土遺物
白磁・三彩・緑釉陶器

この3遺跡は中心となる時期がほぼ同じであることから同一遺跡と想定され、結城郡の中心集落であるとともに、本史跡との関連が注目される。

これらの遺跡の北東約3.7km、台地下に延喜式内社である健田神社の旧跡(図2-4-市(5))が残る。健田神社は、鬼怒川の度重なる氾濫により社殿が流失し、宝暦14年(1764)に小埜の乗国寺境内に移されている。その後は、明治3年(1870)の神仏分離令によって須賀神社に合祀され、健田須賀神社たけだすがじんじやとなっている。



図2-13 下り松遺跡出土遺物 小型銅造仏

4 中世

中世の結城は、北部を結城氏が、南部を山河（山川）氏が支配した。結城氏初代の朝光は、下野国小山荘（栃木県小山市）の武士であった小山政光おやまさみつの三男で、源頼朝に従い、鎌倉幕府の創設に尽力した。寿永2年（1183）に勃発した野木宮合戦のぎのみやかっせんにおける恩賞として、朝光は結城郡を与えられ、結城姓を名乗り始めたと考えられている。また、結城郡を領地として与えられた際に、本拠地を現在の市北部に定めたため、結城郡の中心地は現在の市北部周辺に移った。以後、結城氏は鎌倉幕府の御家人として活躍した。



図2-14
紙本著色結城朝光
肖像画

山川氏は、結城氏初代の朝光（図2-14）の四男であった重光が分家し、上山川地域を拠点として本家である結城氏に並ぶほどの勢力を拡大させた武家であった。



図2-15
結城城跡
(北東から)

本史跡の南東700mに位置する東持寺（図2-4-016）は、山河（山川）氏の居館跡と伝えられている。この居館跡は、堀及び土塁が遺存しており、当時の館の規模を彷彿とさせる。また、南の出入口を館の「大手門」とし、南に真直ぐに伸びる道は「馬場」と考えられており、「馬場」は現在も小字名として残っている。館の存続時期は鎌倉時代から戦国時代までと考えられており、境内にある正和6年（1317）2月15日の紀年銘が刻まれた大板碑をはじめ、一帯には中世の石造物も多い。

その他にも、市内には中世城館跡が残されている。結城氏の本拠地である結城城跡（図2-4-014、図2-15）は、永享12年（1440）から嘉吉元年（1441）に起こった結城合戦の主戦場となっており、この合戦で結城氏は一時滅亡する。城の内遺跡（図2-4-017）は、現在も堀と土塁が遺存するが、遺跡内部から14世紀後半から15世紀の遺構・遺物が確認されており、結城氏の出城的な役割を担っていたと考えられる。山河（山川）氏は、戦国時代頃に本拠地を南方約3.5kmに位置する山川綾戸城跡（図2-4-015）へ移動したと伝わる。

5 近世

近世には、本史跡周辺は結城寺村と呼ばれており、村名の由来が本史跡に因ったものと考えられる。

結城寺村の初出は、慶長10年（1605）の鈴木誠一郎家文書にみられる。また、寛永17年（1640）の同家文書には「結城村」ともある。延享2年（1745）の寺百姓等口上書上案（山中倉松文書）には、「寺跡境内東西式百廿間程、南北式百廿五間程、其殿堂伽藍鬼瓦布目瓦破損シ、畑廻り塚築置、結城寺跡ニ明鏡紛無御座候」と記されており、江戸時代には本史跡の存在は知られていたことになる。

結城寺村は、慶長6年(1601)に幕府御領となり、代官の伊奈備前守忠次の支配下に置かれた。その後、慶長9年(1604)に松平定綱(下総山川藩)領、元和2年(1616)からは京極主膳正高通(丹後峰山藩)の領地となり、正保4年(1647)に京極主膳正高通の領分と結城寺の領分に分村され、結城寺領で幕末を迎える。

結城寺は、本史跡の南方約3.5kmに位置する。江戸時代頃に編纂された寺伝である「下総国結城郡山川郷清浄蓮華山来由」によると、永享12年(1440)から嘉吉元年(1441)に起こった結城合戦で焼失した結城廢寺を、永禄年間(1558~1570)に現在地に再建した寺であると伝わる。

6 近現代

明治維新後の結城寺村は、明治4年(1871)の廢藩置県時には結城寺村として残っていた。しかし、明治15年(1882)の連合村制によって矢畑村・矢畑新田・上山川村と合併し上山川村連合となり、結城寺村の名称は行政上消滅した。しかし、史跡地及び周囲には結城寺前、結城寺北、寺山といった結城廢寺跡に関係する小字名が現代まで残る。

第3節 社会的環境

1 市の沿革

本市は、明治4年（1871）の廃藩置県以前は下総国に属し、市域一帯は結城郡と呼ばれていた。市域には、廃藩置県当時36の町・宿・村があり、結城藩・壬生藩・幕府御領・一橋領・旗本領が錯綜していた。明治4年7月の廃藩置県によって、結城県・壬生県・若森県にそれぞれ所属したが、同年10月には印旛県に統一され、さらに明治6年（1873）6月に千葉県へ所属した。明治8年（1875）5月に、茨城県と千葉県の間で境界変更が行われ、利根川以北の郡は茨城県に所属することとなり、結城郡も千葉県から茨城県へと所属した。

明治10年代の連合村制により、本市の行政制度はめまぐるしく改変されたが、明治22年（1889）の町村制により結城町・絹川村・上山川村・山川村・江川村の1町4村が成立した。その後、昭和29年（1954）3月に1町4村が合併して結城市が誕生し、現在に至る。

2 市の概況

本市は、茨城県西部に位置し、東は鬼怒川を挟み筑西市、南は古河市及び八千代町、北と西は西仁連川（江川）・田川を隔てて栃木県小山市と接し、東経139度52分、北緯36度18分、海拔38.6mに立地する。市域は東西約6.3km、南北約13.5kmと南北に長く、総面積は約65.76㎢である。

市域北端の市街地は、中世から近世にかけて形成された城下町の名残をとどめる都市であり、その町割りを基に市街地が形成され発展してきた。近年は、交通網の発達により東京への通勤圏となり、国道50号バイパス周辺を中心に宅地化や都市開発が進んでいる。市域の南部は農業が主体となる地域で、田園風景や雑木林が広く残る。

栃木県に接し、茨城県の他市町村とは鬼怒川によって隔てられるという立地のため、方言といった文化や交通面、経済面において栃木県との係わりが深く、栃木県小山市・下野市・野木町と「小山地区定住自立圏」を構成している。

本市の交通網は、前述したように栃木県と密接に係わる。市北部には東西方向に国道50号、西部は南北に新4号国道が通る。市北部には鉄道が通り、JR水戸線が筑西市と栃木県小山市方面を繋ぐ（図2-16）。



図 2-16 結城市の位置図

3 アクセス

市の北部には主要な交通網が整備されている。鉄道として JR 水戸線が東西に通り、市内には東結城・結城・小田林の 3 駅が設けられている。主要な道路としては、市北部を東西方向に国道 50 号、市北西部を南北方向に通る新 4 号バイパス、市を南北に通る県道 17 号結城野田線や県道 20 号結城坂東線などがある。

本史跡は、市南部の上山川地区・矢畑地区に位置し、西方 450m には県道 20 号結城坂東線が、南方 550m には県道 54 号明野間々田線が通る。結城駅から直線で 4.5 km、国道 50 号バイパスからは直線で 3.3 km に位置する（図 2-17）。



図 2-17 道路・交通現況図

4 土地利用

本市においては、畑が4割近くを占めているが、宅地造成の増加によって山林と共に減少傾向が見られている。その宅地は全体の2割ほどで、田とほぼ同じ割合となっている。また、原野・荒地・牧野、水面などを含めた「その他」は2割となる。本史跡周辺は北側に住宅地、東側には畑地が広がり、西側及び南側は畑地や宅地、工場などが混在する（図2-18）。

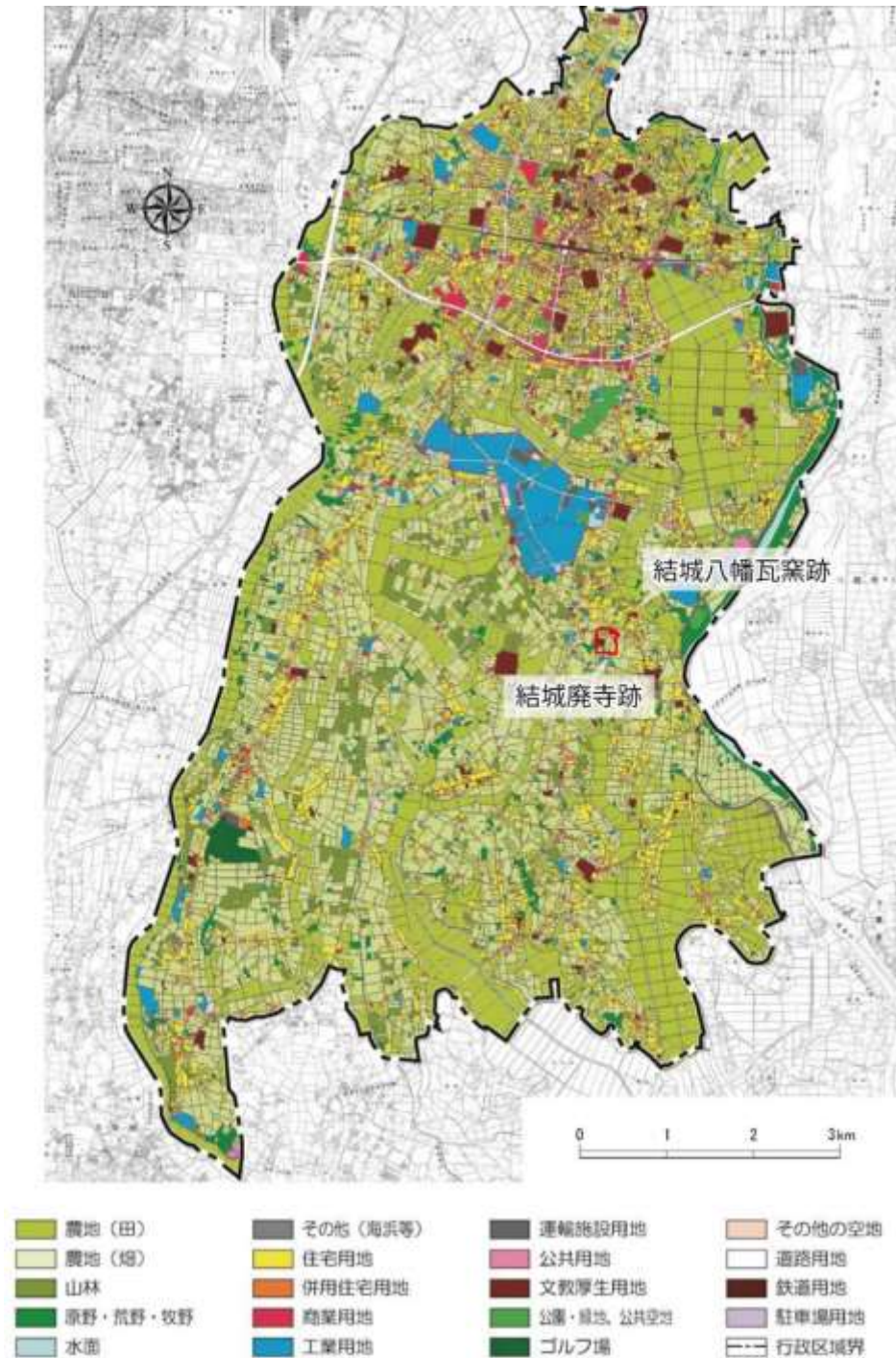


図2-18 土地利用現況図（平成23年度都市計画基礎調査）
（出典：結城市都市計画マスタープラン、一部加筆修正）

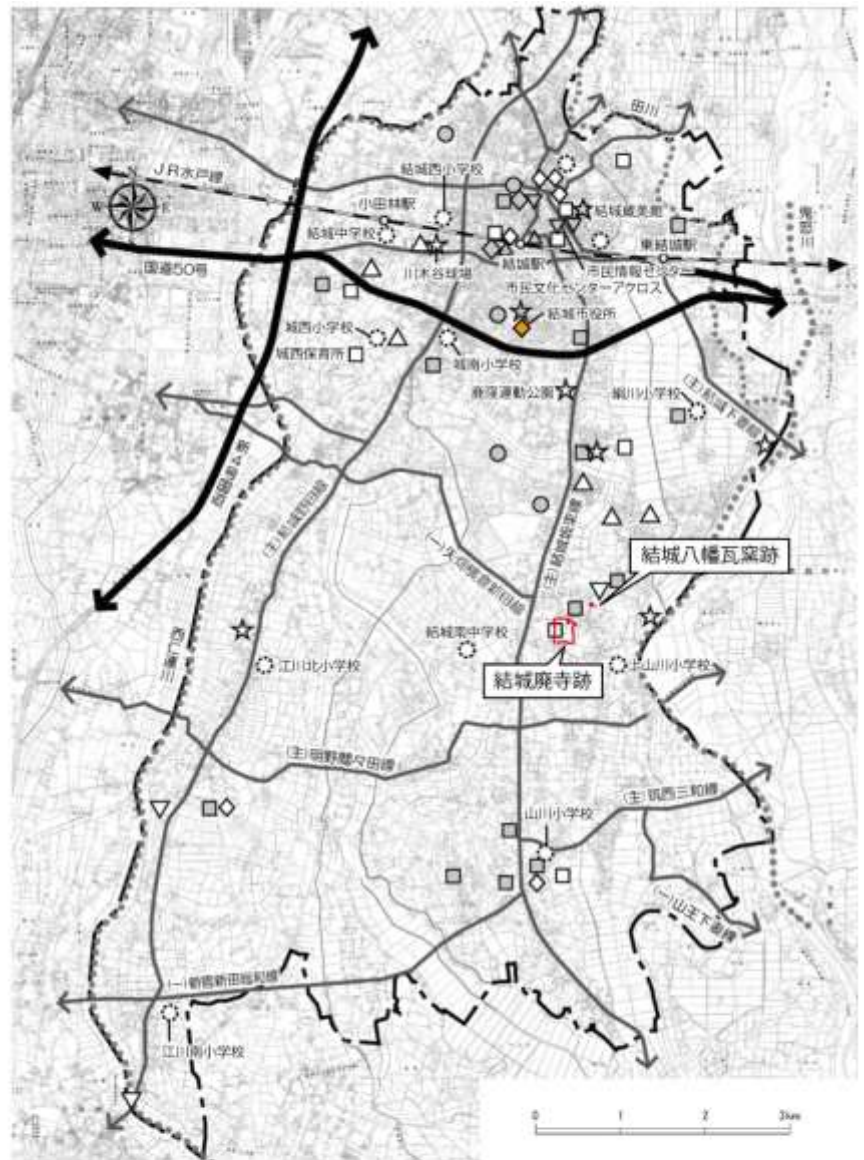
5 公共施設

本市における公共施設としては、結城市民情報センター、結城市民文化センター、結城蔵美術館などがある。それらの位置は、図2-19のとおりである。

史跡周辺の集会施設として上山川地区に2か所のコミュニティセンター、保健・福祉施設として保育所が1か所、学校教育施設として小学校が1校ある。

結城市民情報センターは、本市の様々な情報を収集蓄積・提供し、市民の情報活用を支援するとともに、市民の学習活動や交流の場を提供する施設で、図書館を併設している。

結城市民文化センターは、大ホール(1,276席)と小ホール(363席)を有しており、また、結城蔵美術館は明治期の土蔵(見世蔵)を平成21年度(2009)に展示施設として改修したものであるが、いずれも本史跡とは距離が離れている。



行政区境界	子育て・福祉施設	公営住宅	鉄道・駅
市庁舎・村庁舎	学校	農業集落排水	河川
駐車場	生涯学習施設	公園	
駐輪場	スポーツ施設	国道	(主)：主要地方道
集会・交流施設	芸術文化施設	県道、主要地方道	(一)：一般県道

※市役所駅前分庁舎は、庁舎移転のため、現在使用していない。

図2-19 公共公益施設現況図
(出典：結城市都市計画マスタープラン、一部加筆修正)

6 市の指定等文化財

本市の指定・登録文化財は、国指定2件、県指定18件、市指定90件、国登録29件の計139件である（表2-2～4、図2-20）。

国指定は、本史跡と重要無形文化財の結城紬（平織）がある。結城紬は、昭和31年（1956）4月24日付けで指定された。指定要件として、①使用する糸は、すべて真綿より手つむぎしたものとし、強撚糸を使用しないこと、②緋模様をつける場合は、手くぶり（緋くり）によること、③いざり機（地機）で織ることの3工程が挙げられている。さらに、平成22年（2010）11月16日付けでユネスコ無形文化遺産に登録された。

国登録は、いずれも有形文化財（建造物）で、土蔵造りの店舗である見世蔵を主体とし、酒蔵や住宅、レンガ造りの煙突などがある。建築年代は江戸末期から昭和初期まで、特に明治中期の建造物が主体的で、商業で栄えた旧市街地の象徴的存在となっている。

県指定は、結城氏17代目の結城晴朝の肖像画や与謝蕪村の描いた襖絵、平将門の伝説が残る不動明王坐像、殺生石の伝説を持つ源翁和尚の愛用品と伝わる払子・数珠、南北朝時代から戦国時代までの結城氏に関する古文書群である健田須賀神社文書、横糸に強撚糸を使用した結城紬の縮織、天保の改革を主導した水野越前守忠邦の墓などがある。

市指定は、結城氏の菩提寺である孝顕寺や乗国寺の山門をはじめとして、結城氏に関わる肖像画や仏像、結城氏・山河（山川）氏の城館跡や墓所、近世結城町の様子を伝える赤荻家所蔵文書、市内各所に残る古墳、大杉囃子の系譜をたどるお囃子、樹齢350年以上の大桑神社の櫓などがある。

指定・登録文化財一覧

表2-2 国指定・登録

No.	種類	名称	時代	所在地	所有者・管理者	指定年月日
1	無形文化財	結城紬（平織）	—	—	本場結城紬技術保持会	昭和31年4月24日
2	史跡	結城廃寺跡附結城八幡瓦窯跡	奈良～室町	大字上山川ほか	結城市ほか	平成14年9月20日
3	登録有形	結城酒造株式会社レンガ煙突	明治	大字結城（西町）	個人	平成12年4月28日
4	登録有形	奥順見世蔵	明治	大字結城（大町）	個人	平成17年2月9日
5	登録有形	奥順店舗	大正	大字結城（大町）	個人	平成17年2月9日
6	登録有形	奥順離れ	明治	大字結城（大町）	個人	平成17年2月9日
7	登録有形	奥順土蔵	明治	大字結城（大町）	個人	平成17年2月9日
8	登録有形	結真紬見世蔵	明治	大字結城（大町）	個人	平成17年2月9日
9	登録有形	結真紬主屋	明治	大字結城（大町）	個人	平成17年2月9日

第3章 史跡の概要及び現状と課題

No.	種類	名称	時代	所在地	所有者・管理者	指定年月日
10	登録有形	小西見世蔵	明治	大字結城（浦町）	個人	平成17年2月9日
11	登録有形	赤荻本店見世蔵	明治	大字結城（浦町）	個人	平成17年2月9日
12	登録有形	秋葉糍味噌醸造見世蔵	大正	大字結城（浦町）	個人	平成17年2月9日
13	登録有形	鈴木紡績見世蔵	明治	大字結城（西の宮）	個人	平成17年2月9日
14	登録有形	鈴木紡績主屋	明治	大字結城（西の宮）	個人	平成17年2月9日
15	登録有形	中澤商店見世蔵及び主屋	明治	大字結城（穀町）	個人	平成17年2月9日
16	登録有形	旧黒川米穀店店舗	明治	大字結城（西の宮）	個人	平成18年10月18日
17	登録有形	キヌヤ菓舗店舗	明治	大字結城（大町）	個人	平成18年10月18日
18	登録有形	奥順老の蔵	明治	大字結城（大町）	奥順株式会社	平成18年10月18日
19	登録有形	小倉商店店舗兼主屋	明治	大字結城（浦町）	個人	平成20年3月7日
20	登録有形	奥庄店舗兼主屋	昭和	大字結城（大町）	個人	平成21年1月8日
21	登録有形	保坂家住宅主屋	大正	大字結城（浦町）	個人	平成23年7月25日
22	登録有形	保坂家住宅土蔵	大正	大字結城（浦町）	個人	平成23年7月25日
23	登録有形	武勇見世蔵	江戸	大字結城（浦町）	個人	平成23年7月25日
24	登録有形	武勇脇蔵	明治	大字結城（浦町）	個人	平成23年7月25日
25	登録有形	武勇製品蔵	明治	大字結城（浦町）	個人	平成23年7月25日
26	登録有形	武勇仕込蔵	明治	大字結城（浦町）	個人	平成23年7月25日
27	登録有形	武勇旧釜蔵	明治	大字結城（浦町）	個人	平成23年7月25日
28	登録有形	武勇煙突	大正	大字結城（浦町）	個人	平成23年7月25日
29	登録有形	鈴木新平商店見世蔵	明治	大字結城（浦町）	個人	平成26年12月19日
30	登録有形	鈴木新平商店文庫蔵	明治	大字結城（浦町）	個人	平成26年12月19日
31	登録有形	鈴木新平商店座敷棟	明治	大字結城（浦町）	個人	平成26年12月19日

表2-3 県指定

No.	種類	名称	時代	所在地	所有者・管理者	指定年月日
32	絵画	絹本著色当麻曼荼羅	室町	大字結城（西町）	宗教法人弘経寺	昭和32年1月25日
33	絵画	紙本著色襖絵	江戸	大字結城（西町）	宗教法人弘経寺	昭和32年1月25日
34	絵画	紙本著色武者肖像画	安土桃山	大字結城（立町）	宗教法人孝顕寺	昭和32年1月25日
35	絵画	紙本著色結城晴朝肖像画	江戸	大字結城（立町）	宗教法人孝顕寺	昭和32年6月26日
36	絵画	紙本著色結城政朝夫人肖像画	安土桃山	大字結城（立町）	宗教法人孝顕寺	昭和32年6月26日
37	彫刻	木造不動明王坐像	室町	大字山川新宿	宗教法人大栄寺	昭和33年3月12日
38	彫刻	木造観音菩薩立像	室町	大字結城（戸野町）	宗教法人大輪寺	平成7年1月23日
39	工芸品	払子	室町	大字結城（鍛冶町）	宗教法人安穏寺	昭和32年1月25日

No.	種類	名称	時代	所在地	所有者・管理者	指定年月日
40	工芸品	数珠	室町	大字結城（鍛冶町）	宗教法人安穩寺	昭和32年1月25日
41	工芸品	古鏡	—	大字結城（番匠町）	個人	昭和32年6月26日
42	工芸品	百万塔	奈良	大字結城（西の宮）	個人	昭和33年3月12日
43	工芸品	太刀（葵くずし紋）	江戸	大字結城（塔の下）	個人	昭和38年8月23日
44	書跡	往生要集	鎌倉	大字結城（浦町）	宗教法人称名寺	昭和33年3月12日
45	古文書	健田須賀神社文書	室町	大字結城（浦町）	宗教法人健田須賀神社	平成8年1月25日
46	無形文化財	結城紬（縮織）	—	—	（公財）重要無形文化財結城紬技術保存会	昭和28年11月14日
47	無形民俗	上山川諏訪神社太々神楽	江戸？	大字上山川	宗教法人諏訪神社	平成17年11月25日
48	史跡	水野越前守忠邦の墓	江戸	大字山川新宿	個人・結城市	昭和33年3月12日
49	史跡	結城御朱印堀（附. 地図2・証文1・由来帳1）	江戸	大字結城（立町）	宗教法人孝顕寺ほか	昭和33年3月12日

表2-4 市指定

No.	種類	名称	時代	所在地	所有者・管理者	指定年月日
50	建造物	石幢	室町	大字結城（塔の下）	宗教法人華蔵寺	昭和42年2月9日
51	建造物	石幢	室町	大字結城（白銀町）	宗教法人常光寺	昭和42年2月9日
52	建造物	宝篋印塔	江戸	大字結城（宮の下）	宮の下	昭和43年9月10日
53	建造物	上山川諏訪神社本殿	室町	大字上山川	宗教法人諏訪神社	昭和49年12月27日
54	建造物	孝顕寺三門	江戸	大字結城（立町）	宗教法人孝顕寺	昭和52年3月4日
55	建造物	称名寺御霊屋門	室町	大字結城（浦町）	宗教法人称名寺	昭和52年12月6日
56	建造物	称名寺二条門	江戸	大字結城（浦町）	宗教法人称名寺	昭和52年12月6日
57	建造物	乗国寺四脚門	江戸	大字結城（小塙）	宗教法人乗国寺	昭和52年12月6日
58	建造物	乗国寺楼門	江戸	大字結城（小塙）	宗教法人乗国寺	昭和52年12月6日
59	建造物	諏訪神社本殿	江戸	大字北南茂呂	宗教法人諏訪神社	昭和54年7月13日
60	建造物	小森大桑神社本殿	江戸	大字小森	大桑神社	平成4年3月31日
61	建造物	中世五輪塔	鎌倉～室町	大字上山川	宗教法人東持寺	平成7年6月12日
62	建造物	安穩寺山門	江戸	大字結城（鍛冶町）	宗教法人安穩寺	平成21年11月30日
63	絵画	紙本著色結城朝光肖像画	安土桃山頃	大字結城（浦町）	宗教法人称名寺	昭和38年10月1日
64	絵画	絹本著色復庵和尚頂相	室町	大字結城（塔の下）	宗教法人華蔵寺	昭和48年3月12日

第3章 史跡の概要及び現状と課題

No.	種類	名称	時代	所在地	所有者・管理者	指定年月日
65	絵画	紙本著色不動明王像	—	大字結城（永横町）	宗教法人釈迦堂	昭和49年4月26日
66	絵画	源翁禅師頂相	室町	大字結城（鍛冶町）	宗教法人安穩寺	昭和51年4月1日
67	絵画	紙本山川綾戸城古図	室町	東京都日野市	個人	昭和52年12月6日
68	彫刻	銅造阿弥陀如来坐像	—	大字結城（白銀町）	宗教法人常光寺	昭和38年10月1日
69	彫刻	木造結城政勝像	明治	大字結城（観音町）	宗教法人華蔵寺	昭和39年9月1日
70	彫刻	木造大黒天像	江戸	大字結城（戸野町）	宗教法人大輪寺	昭和43年9月9日
71	彫刻	貴船神社本殿彫刻	江戸	大字結城（宮の下）	宗教法人貴船神社	昭和43年9月9日
72	彫刻	木造結城朝光像	—	大字結城（浦町）	宗教法人称名寺	昭和46年9月11日
73	彫刻	木造釈迦如来坐像	江戸	大字大木	宗教法人東光寺	昭和46年9月11日
74	彫刻	木造弁財天坐像	室町	大字結城（西の宮）	個人	昭和48年3月12日
75	彫刻	鑄銅虚空蔵菩薩坐像	室町	大字結城（永横町）	宗教法人釈迦堂	昭和49年4月26日
76	彫刻	狛犬	江戸	大字結城（浦町）	宗教法人健田須賀神社	昭和52年3月4日
77	彫刻	獅子頭	室町	大字結城（浦町）	宗教法人健田須賀神社	昭和52年3月4日
78	彫刻	木造毘沙門天立像	室町	大字結城（西の宮）	宗教法人光福寺	昭和52年3月4日
79	彫刻	木造阿弥陀如来立像	鎌倉	大字武井	宗教法人西勝寺	昭和53年4月11日
80	彫刻	木造阿弥陀如来半跏像	平安	大字今宿	宗教法人長徳院	平成16年4月30日
81	彫刻	木造普賢菩薩像	江戸	大字大木	宗教法人東光寺	平成20年3月31日
82	彫刻	木造文殊菩薩像	江戸	大字大木	宗教法人東光寺	平成20年3月31日
83	彫刻	木造宝冠釈迦如来坐像	南北朝	大字結城（小塙）	宗教法人乗国寺	平成29年7月31日
84	彫刻	木造結城政勝坐像	室町	大字結城（小塙）	宗教法人乗国寺	平成29年7月31日
85	工芸品	経宮	江戸	大字結城（戸野町）	宗教法人大輪寺	昭和43年9月9日
86	工芸品	石燈籠	江戸	大字結城（宮の下）	宗教法人貴船神社	昭和43年9月10日
87	工芸品	海獣葡萄鏡	唐？	大字結城（大町）	結城市教育委員会	昭和48年3月12日
88	工芸品	鉄鍬	—	大字上山川	宗教法人諏訪神社	昭和49年12月27日
89	工芸品	明治天皇御愛用品	明治	大字上山川	個人	昭和51年2月5日
90	工芸品	追分道標石燈籠	江戸	大字結城（木町）	宗教法人光福寺	昭和59年2月20日
91	工芸品	大町屋台	江戸	大字結城（大町）	大町町内会	平成20年3月31日
92	典籍	経典（大日経7・金剛頂経3・蘇悉地経3）	江戸	大字結城（戸野町）	宗教法人大輪寺	昭和43年9月9日

No.	種類	名称	時代	所在地	所有者・管理者	指定年月日
93	古文書	赤荻家所蔵文書	江戸	大字結城(浦町)	個人	昭和48年3月12日
94	古文書	将軍家政所下文	鎌倉	大字上山川	個人	昭和51年2月5日
95	古文書	将軍足利義政感状他	室町	大字上山川	個人	昭和52年3月4日
96	古文書	鎌倉公方持氏感状他	室町	大字上山川	個人	昭和52年3月4日
97	古文書	古河公方成氏契状案	室町	大字上山川	個人	昭和52年3月4日
98	古文書	多賀谷季雄家文書	戦国	大字結城(大町)	結城市教育委員会	令和4年2月1日
99	紙本	山川氏系図	戦国	大字上山川	宗教法人東持寺	平成7年6月12日
100	考古資料	板碑	鎌倉	大字上山川	宗教法人東持寺	昭和38年10月1日
101	考古資料	板碑	鎌倉	大字結城(塔の下)	宗教法人華蔵寺	昭和38年10月1日
102	考古資料	埴仏	奈良	大字結城(大町)	結城市教育委員会	平成16年4月30日
103	考古資料	塔心礎舍利孔石蓋	奈良	大字結城(大町)	結城市教育委員会	平成16年4月30日
104	考古資料	弘長二年銘板碑	鎌倉	大字結城(大町)	結城市教育委員会	平成29年7月31日
105	考古資料	結城作出土木棺	古墳	大字結城(大町)	結城市教育委員会	令和2年10月28日
106	考古資料	結城廃寺跡出土塑像	奈良	大字結城(大町)	結城市教育委員会	令和2年10月28日
107	無形民俗	結城ぎおんばやし(田間)	—	大字田間	田間大杉囃子保存会	昭和42年4月24日
108	無形民俗	結城ぎおんばやし(大木)	—	大字大木	大木おはやし保存会	昭和42年9月20日
109	無形民俗	結城ぎおんばやし(小森)	—	大字小森	小森囃子連	昭和42年9月20日
110	無形民俗	結城ぎおんばやし(本田・寺内)	—	大字小田林	結城市小田林本田寺内お囃子会	昭和42年9月20日
111	無形民俗	結城ぎおんばやし(古新田・黒田)	—	大字小田林	古新田黒田おはやし保存会	昭和42年9月20日
112	史跡	結城朝光の墓	—	大字結城(浦町)	宗教法人称名寺	昭和38年10月1日
113	史跡	慈眼院結城家御廟	室町	大字結城(小塙)	個人・宗教法人乗国寺	昭和38年10月1日
114	史跡	保戸塚	古墳	大字鹿窪	個人	昭和38年10月1日
115	史跡	林八幡塚	古墳	大字林	個人	昭和38年10月1日
116	史跡	林八幡塚陪塚	古墳	大字林	個人	昭和38年10月1日
117	史跡	備中塚	古墳	大字上山川	宗教法人慈眼寺	昭和38年10月1日
118	史跡	古山八幡塚	古墳	大字上山川	結城市	昭和38年10月1日
119	史跡	愛宕山塚	古墳	大字上山川	南宿愛宕神社総代	昭和38年10月1日
120	史跡	浅間塚	古墳	大字結城(松木合)	浅間神社	昭和38年10月1日
121	史跡	地の神塚	古墳	大字結城(松木合)	個人	昭和38年10月1日

第3章 史跡の概要及び現状と課題

No.	種類	名称	時代	所在地	所有者・管理者	指定年月日
122	史跡	山の神塚	古墳	大字結城（松木合）	個人	昭和38年10月1日
123	史跡	中世武家屋敷跡	鎌倉	大字上山川	宗教法人東持寺	昭和39年9月1日
124	史跡	玉日姫の墓	江戸	大字結城（玉岡町）	宗教法人称名寺	昭和39年9月1日
125	史跡	結城城跡	室町～江戸	大字結城（本町）	結城市ほか	昭和39年9月1日
126	史跡	砂岡雁岩の墓	江戸	大字結城（西町）	宗教法人弘経寺	昭和39年9月1日
127	史跡	源翁和尚の墓	江戸	大字結城（玉岡町）	宗教法人安穩寺	昭和39年9月1日
128	史跡	仙太郎稻荷塚	古墳	大字結城（曾我殿台）	宗教法人華蔵寺	昭和39年9月1日
129	史跡	庚申塚	古墳	大字結城（曾我殿台）	個人	昭和39年9月1日
130	史跡	稻荷塚	古墳	大字北南茂呂	個人	昭和39年9月1日
131	史跡	山川綾戸城跡	戦国	大字山川新宿	宗教法人結城寺	昭和42年2月9日
132	史跡	和尚塚	古墳	大字結城（公達）	宗教法人華蔵寺	昭和42年2月9日
133	史跡	健田神社旧跡	平安	大字結城（見晴町）	宗教法人健田須賀神社	昭和46年9月11日
134	史跡	増田遷晃文人の碑	明治	大字結城（永横町）	宗教法人釈迦堂	昭和52年3月4日
135	史跡	早見晋我の墓	江戸	大字結城（穀町）	宗教法人妙国寺	昭和52年3月4日
136	史跡	山川家歴代霊廟	戦国	大字今宿	宗教法人長徳院	昭和52年12月6日
137	史跡	山川水野家墓所	江戸	大字山川新宿	個人・結城市	平成25年1月28日
138	史跡	城の内遺跡	室町	大字結城（城の内）	結城市	令和4年2月1日
139	天然記念物	大桑神社の櫓	—	大字小森	大桑神社	昭和51年2月5日

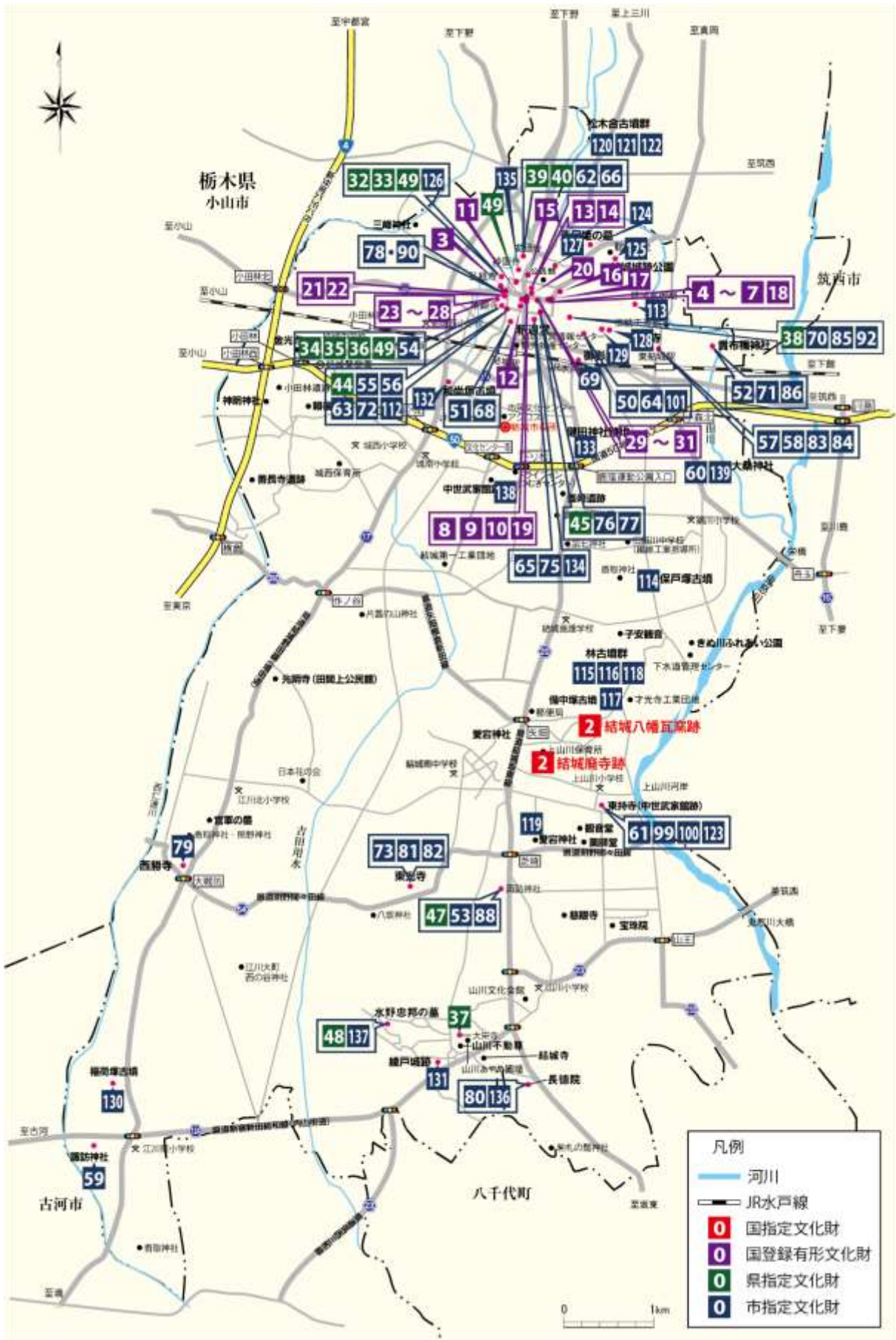


图 2 - 20 指定文化財分布图

文化財写真一覧

国登録有形文化財 【建造物】

結城酒造株式会社



レンガ煙突

奥順



見世蔵



店舗



離れ



土蔵



巻の蔵

結真紬



見世蔵



主屋

小西



見世蔵

赤荻本店



見世蔵

秋葉糴味噌醸造



見世蔵

奥庄



店舗兼主屋

【無形文化財】

国指定

結城紬(平織)



【無形民俗】

県指定

上山川諏訪神社太々神楽



市指定

結城ぎおんばやし(小森)



結城ぎおんばやし(本田・寺内)



【絵画】

県指定

紙本著色襖絵(墨梅図)



紙本著色結城晴朝肖像画



市指定

絹本著色復庵和尚頂相



源翁禅師頂相



【彫刻】

県指定

木造不動明王坐像



木造観音菩薩立像



市指定

木造阿弥陀如来
半跏像



木造宝冠釈迦如来
坐像



【工芸品】

県指定

払子



数珠



市指定

経篋



追分道標石燈籠



大町屋台



【史跡】

県指定

水野越前守忠邦の墓



結城御朱印堀

(下総州結城絵図)



市指定

結城朝光の墓



慈眼院結城家御廟



備中塚



中世武家屋敷跡



健田神社旧跡



山川家歴代霊廟



山川水野家墓所



【天然記念物】

市指定

大桑神社の樺



【書跡】

県指定

往生要集



【典籍】

市指定

經典



【古文書】

県指定

健田須賀神社文書



市指定

赤荻家所蔵文書



將軍家政所下文



【紙本】

市指定

山川氏系図



【考古資料】

市指定

板碑（東持寺）



市指定文化財 【建造物】

上山川諏訪神社本殿



孝顕寺三門



石幢



7 指定範囲における法令等による規制等

本史跡の指定地と関連する法令等を次のとおり整理する。

表2-5 史跡指定地の法適用現況一覧

	区域名・対象	根拠法令	結城廃寺跡	結城八幡瓦窯跡	備考
文化財	史跡指定地	文化財保護法	○	○	
	埋蔵文化財包蔵地	文化財保護法	○	○	周辺含む
農林	農地	農地法	○	○	登記地目に畑地あり
		農業振興地域の整備に関する法律	適用除外		追加指定範囲を除く
	霞ヶ浦森林計画区	森林法	×	○	地域森林計画対象民有林
都市計画	市街化調整区域	都市計画法	○	○	
	用途地域	都市計画法	×	×	
	景観形成重点地区 (拠点景観)	景観法	○	○	計画段階での事前協議法に基づく届出
		茨城県屋外広告物条例	○	○	景観行政団体として、市全域において県条例の許可基準に従う
建築物など	建築基準法 茨城県建築基準条例				

(1) 文化財

結城廃寺跡と結城八幡瓦窯跡は文化財保護法に基づく史跡指定地に該当している。史跡指定地において現状を変更し、またはその保存に影響を及ぼす行為（現状変更など）を行おうとする場合、文化財保護法第125条の規定に基づき、文化庁長官の許可を得る必要がある。また指定地周辺の多くは、周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しており、土木工事などにより土地の発掘を行う際には、事前の届出もしくは通知が必要である（同法第93条及び第94条）。

(2) 農林

本市では、市街化調整区域全域が農業振興地域となっている。本史跡指定地内は、平成20年度（2008）及び令和2年度（2020）に地区除外の申請を行い、除外されている。また、本市は茨城県の定める地域森林計画のうちの霞ヶ浦森林計画区に該当している。

地域森林計画対象民有林における伐採や伐採後の造林の行為については、森林法の定める届出が必要である。なお当該民有林における開発行為が1 ha を超えた場合、林地開発許可が必要となるが本史跡及びその周辺には、該当する物件はない。

(3) 都市計画

本市では、市全域が都市計画区域となっており、本史跡及びその周辺一帯は、市街化調整区域となっている。

また本市は、平成27年（2015）4月1日に景観行政団体となっており、景観計画を策定している。計画では、本史跡周辺が景観形成重点地区（拠点的景観）に位置付けられており、建築物・工作物の建築、土地の形質変更などの土木工事に際しては計画段階での事前協議と届出が必要である。あわせて景観形成を誘導するため、屋外広告物については、茨城県屋外広告物条例の許可基準に従うものとしている。